



SHIRONNEKO

BAD III END

基本CG 5 キャラ
差分込 59 ページ
総数 177 ページ



ハルカは「闇」傘下の人身売買組織に潜入し、
囚われた子供たちを助け出した。
しかし彼女自身は彼らが逃げ切るための時間を稼ぐため、
追手と戦い敗北してしまっ——

—げほん…
…やめっ…離しなせ…しん!

たつく
散々暴れまわりやがってこのクソガキ…
うちの『商品』をどこに隠したか

最…低…ッ!
あ…あなたたちなんか…
教えるもんですか…ッ

そのザマでまだまだ元気いじやねえか
「こっちはこのままじゃ大損なんだ
早めに素直になろ」といた方が身のためだぜ

やめ…

…しん

げほん

クッ

クッ

クッ

——覚悟できてるよーだな
五体満足で帰れると思うなよ？

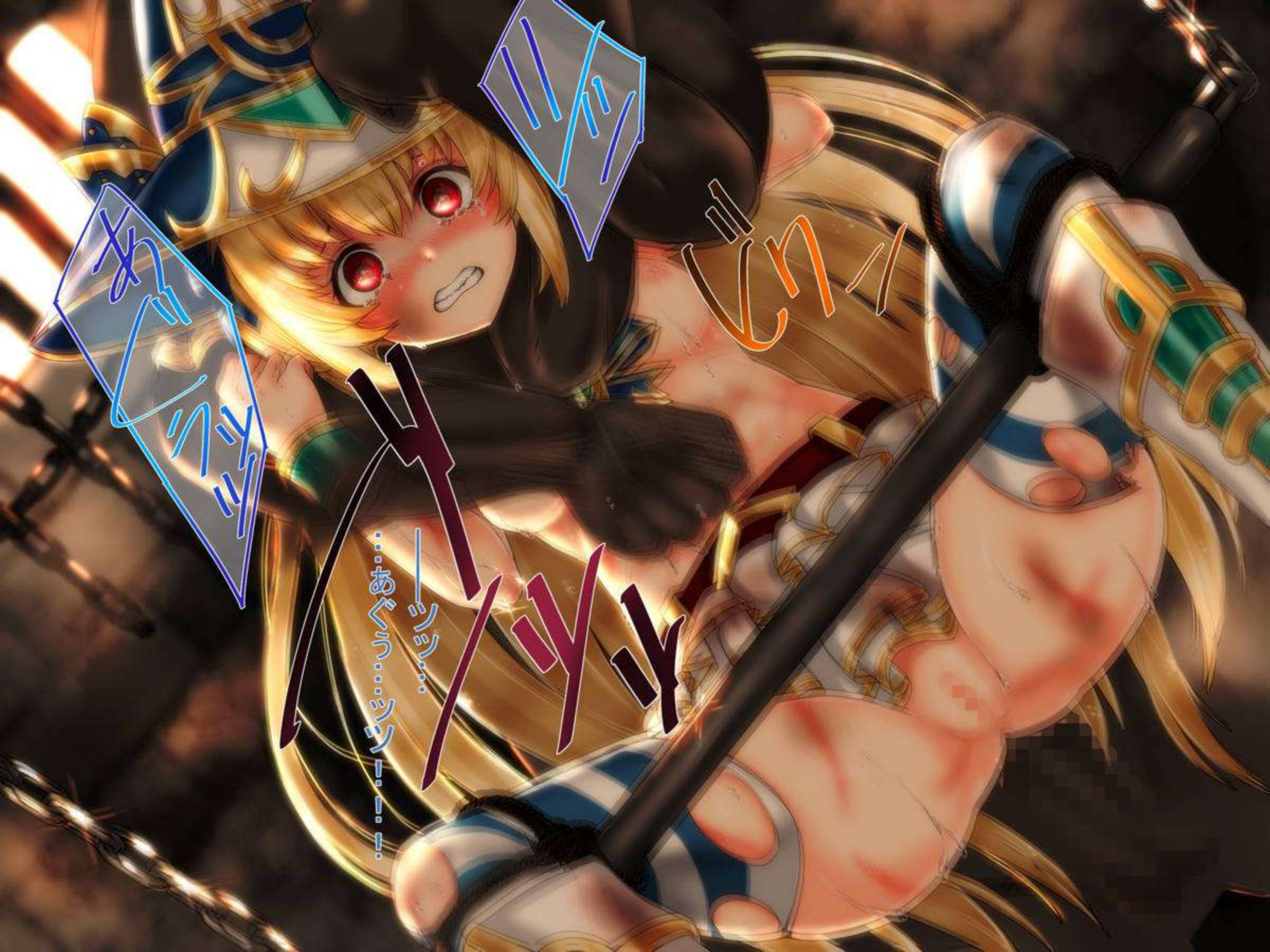
ちよこ……まじ……なにを……じ……

ちよこ……

ちよこ……

ちよこ……

ちよこ……



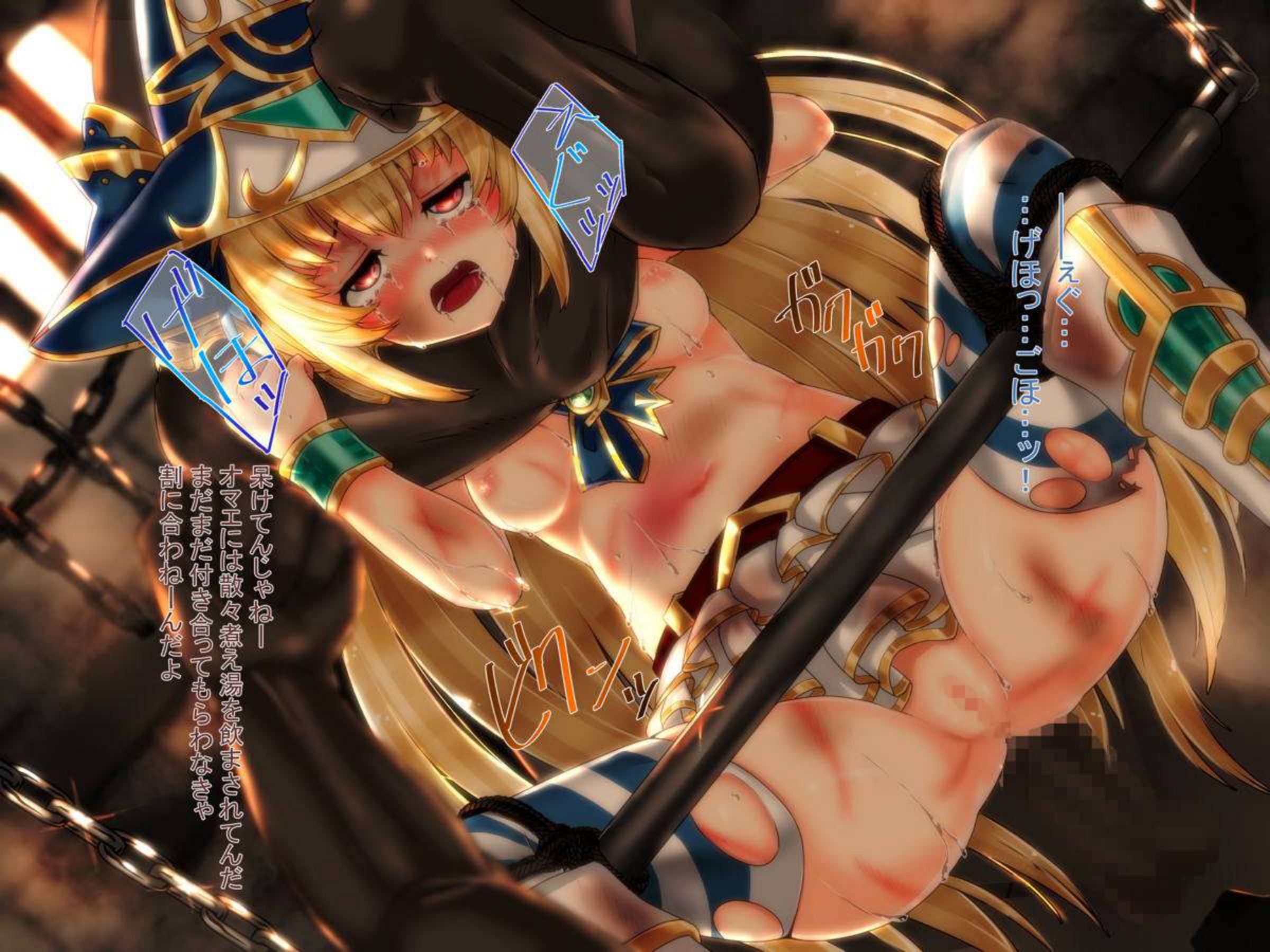
あははは

あははは

あははは

あははは

あははは



あーっ
あーっ
あーっ

あーっ
あーっ

あーっ
あーっ
あーっ
あーっ
あーっ

あーっ
あーっ

呆けてんじやねー
オマエには散々煮え湯を飲まされてんだ
まだまだ付き合ってもらわなきゃ
割に合わねーんだよ

なに寝てんだ
さっきまでの威勢はどうした？

ビク...

ヒクヒク

イビキ...

.....
.....
.....

ヒクヒク

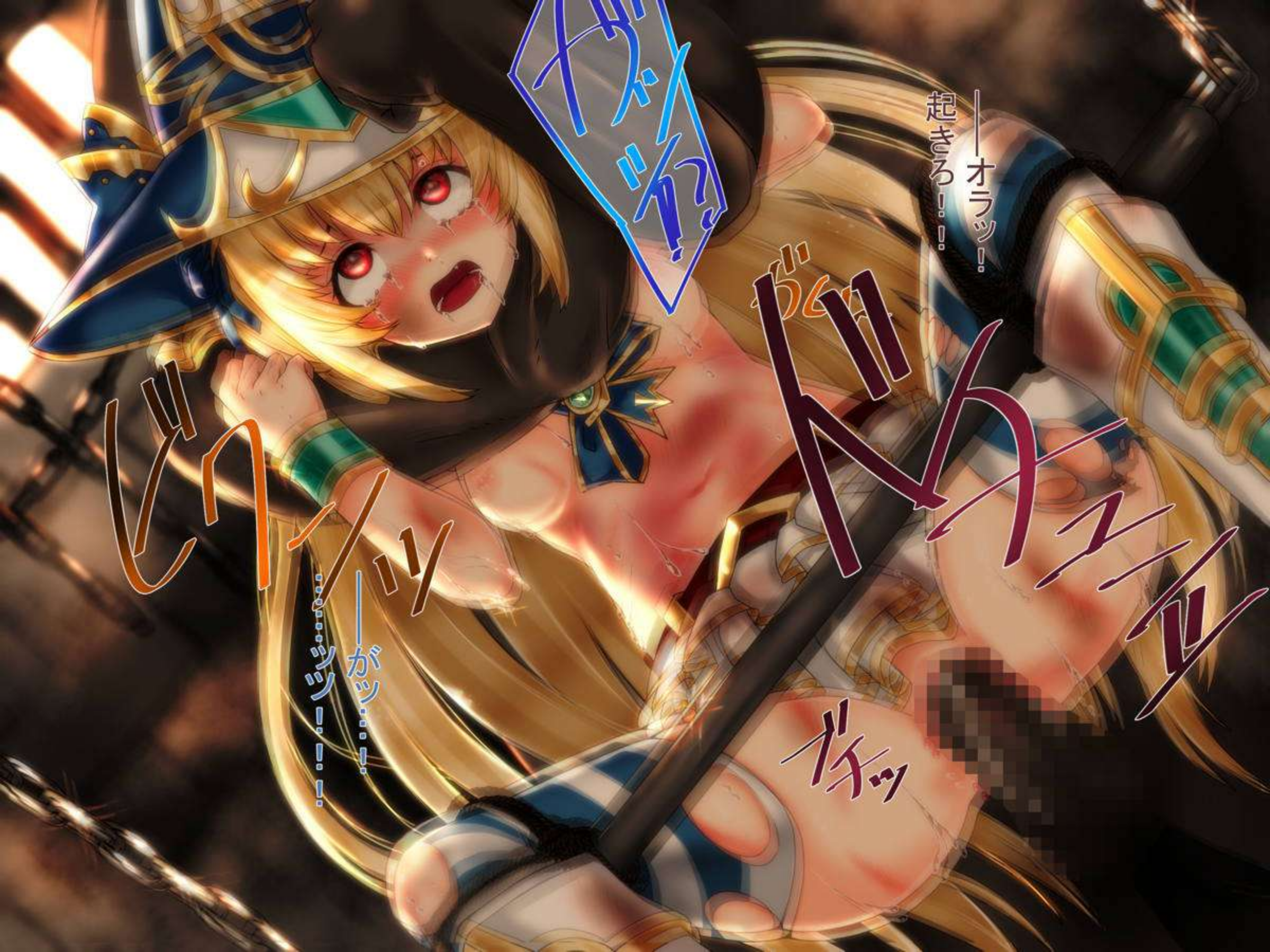
——ちっ

これじゃ訊くもんも訊けやしねえ

ビク...

ヒクヒク

ヒクヒク



ズッ！

—オラッ！
起きろ！！！

か
ら

ク
ム
ク
ム
ク
ム

ム
ム
ム
ム
ム
ム

……がッ……

ク
ム



—あーッッッ……!

…痛ッ…痛ッ…痛ッ…ちあッッッッ……!

グッ

—なんだオマエ
しよんべんくせえと思っいたら処女かよ
濡れてねーから裂けちまったぜ?

ハハハ

グッ
グッ
グッ

—いぎぎ……!

…やッ…ぬ…ぬ…ぬいッッッ……!

ハッ

ハッ

ハッ

ハハハ

—つってもガキにしちや
悪くねえマ○だ
とりあえず一発出すぞ—



あははははは

あははははは

あははははは

あははははは

あははははは

あははははは

—うっうっ…あぐう…うっ…
…やああ…ななあ…あふれえ…

—はッ
臆緩んでサーメン
垂れ流しになってんせやねえか…

—もう一度訊いてやる
今のうちに喋るとかねえと
オマエ明目から魔物の苗床か豚の餌だぜ？

—うっ…いわない…い…ぜ…ぜ…ぜ…
—うっ…

グググググ

グググググ

—ち…めんせくせえ



—すんなり吐いてりゃ
オマエでゆっくり楽しめたのによ
このまま『商品』を
逃がすわけにはいかねえからな…

ガクガク

アハハハ

—ひッ…!?
…な…なにを…ッ

まあ器量はそこそこだ—
廃人になっても
買い手ぐらいつくだるうよ

おめ

おめ

いんが
—ちゃん…!!
…あ…おめ…ッ

いんが

—あははッ……あッ……あッ……
…あはあッ……もっ……あッ……

—はッ完全にぶっ壊れたな
さっきまで処女だったってのに
腕つつ込まれてイッてやがる

—あはッ……

……っ……はあッ……ぎもちいい……ッ

そっぴやオマエが体張って逃がした「商品」な
全員捕まえたってよ？
—て聞こえてねえか

あははッ♡

あ♡

あははッ♡



闇に襲撃され、扉のルーンで辛くもその場を逃れたエシリア。
しかしそれは買だった――

扉のルーンの行き先は強力な魔物の巢の最深部に固定されており、
彼女は魔物に捕えられてしまった。

抵抗もむなしく——
エンリリアは宙吊りにされ
ただもがくことしかできない。

やああ…ジン…
はなしてよお…
エンリリアおいしくないう…ジン…

やああ

ズル



巨大な触手が秘部にこすり付けられる。
魔物の意図が分からず、恐怖で身がすくむ――

ズ
ン

や……ッッ
なにそれ……
うぐぐ……きもちわるい……

やめッッ……

んっ



ア
イ
ウ
エ
オ
カ
キ
ク
ケ
コ
サ
シ
ス
セ
ソ

ハ
ヒ
フ
ヘ
ホ
マ
ミ
ム
メ
モ

ヤ
ユ
ヨ
ラ
リ
ロ

カ
キ
ク
ケ
コ

.....

ト

エシリアは自分が何をされているのか
理解できなかつた。
巨大なモノで未成熟の秘部を「し開けられ、
あまりの苦痛にうめき声を漏らす」としかできない。

(え…エシリアの中に入って…ツツ…
ムムムム…ツツ…?)





Am

Am

Am

Am

Am

Am

生温かいものが
腔内へと注がれ、不快感と異物感が
全身を襲う。

ま...まっつて...
おねがい...もう...やらせ...
まっ...

しかし触手の動きが止まったのもつかの間
新たなモノが魔物の口から伸び...

まっ...

まっ...



アッ

クッ

ガッ

クッ

クッ

クッ

クッ

クッ

ストリガ

ストリガ

ハグッ
ストリガ

もうエンジニアにほとんど意識はなかった
魔物は止まらない。

もう一つの穴へねじ込まれた触手が
体内を容赦なく犯しながら深く深く這入りこむ
壊れたおもちゃのような反応を楽しむように――

ストリガ



スライム

スライム

スライム

スライム

スライム

スライム



Stylized cyan text within a glowing diamond shape, likely representing a title or key concept.

Stylized purple and red text, possibly a name or title, located in the upper central area.

Stylized purple and red text, possibly a name or title, located in the middle left area.

Stylized purple and red text, possibly a name or title, located in the middle right area.

Large, dark red, stylized text, possibly a name or title, located in the lower right area.

Stylized purple and red text, possibly a name or title, located in the lower left area.

完全に意識を失ったエシリアを魔物はなおも犯しぬき、やがて体内に取り込むと行方をくらました。

「彼女の」とだから、いつもの気まぐれだろう」

そんな考えとは裏腹に、

彼女が再び飛行島を訪れる」とは二度となかったのだった。

「——やっと追いつきました
私の国で随分と好き勝手してくれましたね」

「——これはこれはエクセリア王女
私のような一介の魔術師に何か「用が？」

「言い訳は聞きません
あなたが魔物を使役して女性たちを
攫っていた」とは調べが付いています」

「一国の姫だということにお召し物のその汚れよう——
見張りは全て切り伏せてきた——というわけですか」

「ええ——もう逃げ場はありません
おとなしく投降してください」

「と「ろでいつもともに居る白い竜
それからあの赤い男はど「へ？」

「答える必要は——」

「——あなたを「」に行かせるために
足止めをしているのでしょうか？」

「——な、なぜそれを」

「——エクセリア王女
一人で「」に来たのは悪手でしたね
生憎「」はわたしの腹の中だ——」

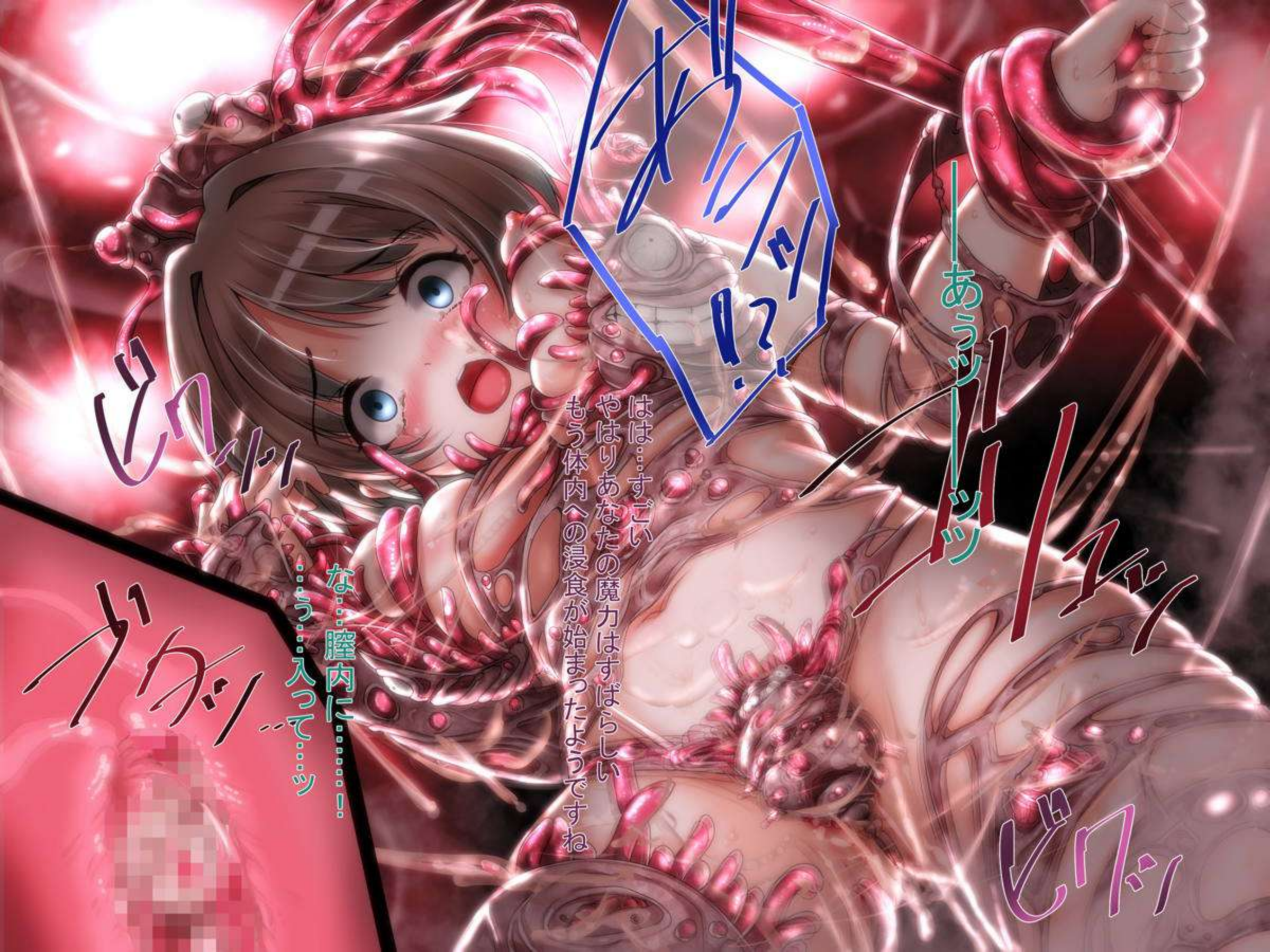
嫌ッ！ な、なに……ッ！
鎧が……ッ！？

あなたが屠った魔物の体液は少々特殊なモノでしてね
魔力を持った物質と結合し、新たな魔物となるのです
あなたの鎧は随分と良質な魔力で編まれていたようだ

き……気持ち悪い……！
……っ胸……巻きつかないで……ッ

町娘では物足りなかったと云う事です
あなたほどの魔力の持ち主であれば
良質な苗床を作れるでしょう
わざわざ来ていただいたいて感謝していますよ

あ……あなたの思い通りには……ッ



はは…すごい
やはりあなたの魔力はすばらしい
もう体内への浸食が始まったようですね

—あうッ
ツッ
ツッ

ツッ
ツッ

ツッ
ツッ

な…腔内に…
…う…入って…ッ

ツッ
ツッ

ツッ
ツッ

ツッ
ツッ

あ……ああ……あう

そういえばあなたは王女でしたね
当然婚姻もまだ……であれば経験もありませんか

ビクッ

あ……

そ……そんな……っ
わたし……こんな……っ

ガクッ
ガクッ

あ……

これは申し訳ないことをしましたね
研究のためとはいえ年ごろの娘がこのようなおぞましい
モノに純潔を奪われるのは苦痛でしょう……
……ですが

……

——処女であったことは「こちらとしては幸運です」
素晴らしい魔力純度ですよ

は……ツツあ……あ……ツツ

うわっ ぐわっ

ハハハ
イェイ
ハハハ
イェイ
ハハハ
イェイ
ハハハ
イェイ
ハハハ
イェイ

あ……っ？

あ……ツツな……腔内で動いて……ツツ！
やめ……おく……ツツ
ごりごりしないれ……ツツ！

うわっ ぐわっ

あう……ツツ……あ、そ……やめツツ……
赤ちゃんの……へやだから……ツツ……

核を植え付けるには魔力の最も集中する器官
女性で言えば子宮が適しています
少々の苦痛は我慢してください

あ……ツツ……あけないで……ツツ……
やめ……細いのが……おく……ツツ……

あ……ツツ……あ……ツツ……

あ……ツツ……あ……ツツ……

あ……ツツ……あ……ツツ……

……はっあツツ
……いたい……なにを……ツツ……

あ……ツツ……あ……ツツ……

それからしつかりと気を持ってください
意識が無いと魔力が半減しますから……

あ……ツツ……あ……ツツ……



ズダッ!

あ...
ツツツ!
ツツツ!

ハムム!

...ツツな...はっあ...ツツ!
あう...おぐに...ツツツ!
う...う...かかないれえ...ツツツ!...

ハムム!

い...やあ...
たまご...ででッ

もう産卵が始まりましたか
これだけの魔力であれば出産もすぐでしょう
ふふ...一体どんな魔物がどれだけ生まれるのか
楽しみですよ...エクセラ女王

...ッ...やあ...ッ...
まものなんて...うっ...
生みたくないッ

おっお

おっお

おっお

おっお
おっお
おっお

おっお

一週間後

これだけの短期間で生み出した魔物は
量、質どれをとっても素晴らしい
やはりあなたに目を付けたのは
正解だったようです

おツッぽん

おツッぽん

おツッぽん

おツッぽん

おツッぽん

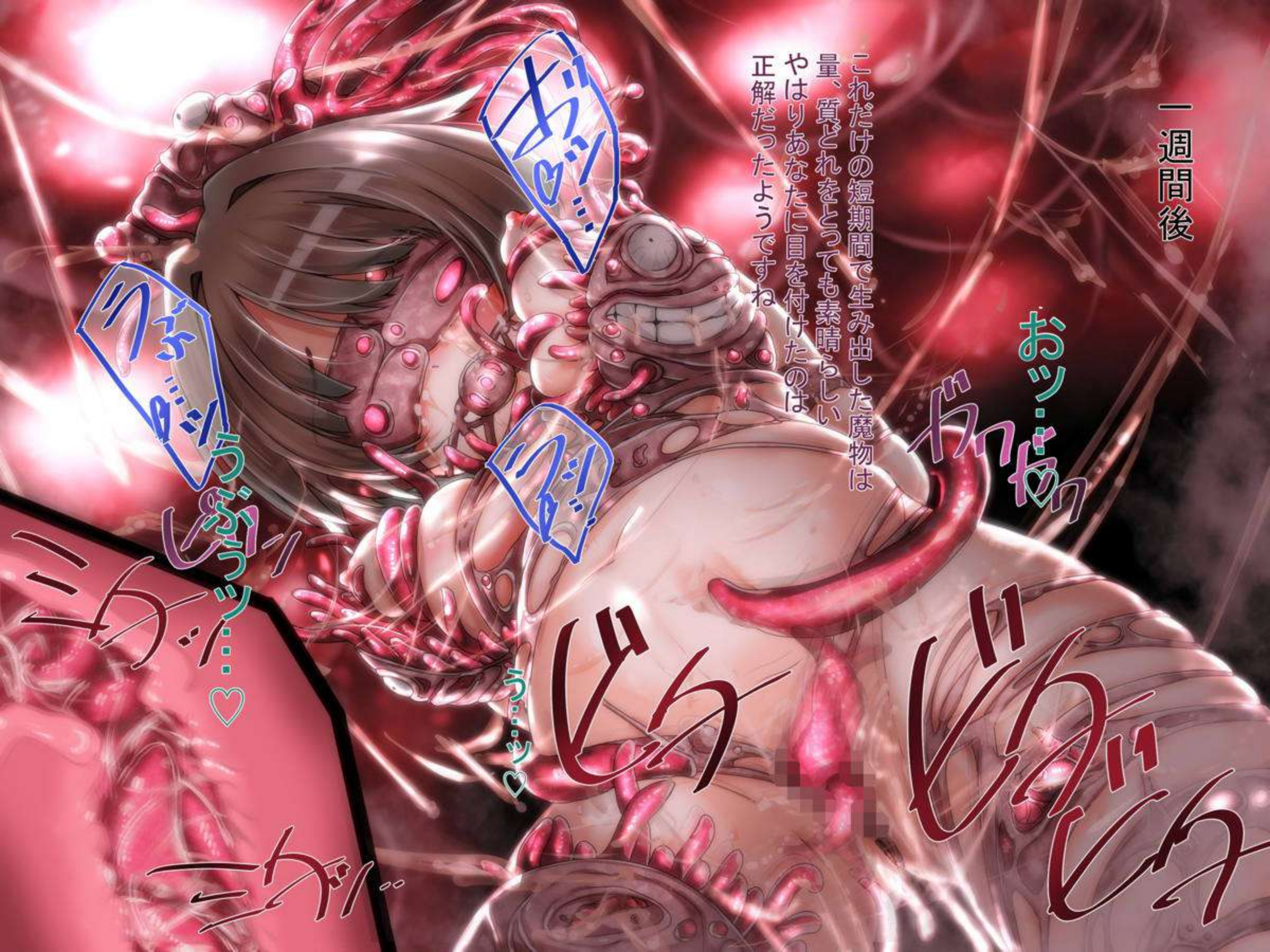
おツッぽん

おツッぽん

おツッぽん

おツッぽん

おツッぽん





あああああ
おほおほ
おほおほ

おほおほおほ
おほおほおほ

…おああッ♡…!!
おほお…ッ♡!!
おおおおおおッ♡…!!

おほおほおほ
おほおほおほ

彼女も幸せそうですし
産めるだけ産んでいたたくことになりましたよっ
かまいませんよね…エクスリア王女?

彼女が嫦娥の一族の生き残り――
ツキミ・ヨゾラです

おお、これが
しかし肝心の『寿命を譲渡する力』は
失われているのだったか……

ええ。人質や拷問といった様々な手段を講じたのですが
どういうわけか正体不明の力に阻まれてしまい……

そうか――
それは残念だ

しかし、かの一族の肉体の特殊性には
多くの利用価値があります――

んじゅん!!

—例えばこのように…
特殊な呪符で絞り出した体液は高い魔力を含有していて
儀式の触媒や体の強壮に高い価値があります

なるほどな—
これの本来の価値を考えれば口惜しいが
腐らせておくよりはマシか

ええ
幸い、彼女の体液は高い需要がありますので
よい資金源にもなるでしょう





何が言いたかったのよ？

ぐわん
ぐわん
ぐわん

あーん

ええ
どうも需要が高すぎるよって
「最近」最近では生産が追いつかないのです

あーん...
...もっのお乳...でないよっ

びゅん

「安心を——
すぐに処置をいたします」

ま、まってッ……!!
あれは嫌なの……っ!!
がんばるから……ッ

おもしろい
キミ、少し様子を見たまえ

おん
びん

—出ないようだな

あーッ！
アッ！

アッ！
アッ！

あ……ッ！
……嫌ッ！
も、もう少しだからあ……ッ！

ええ
ええ
では処置を——



あーっ……ぎん…!!

おぼろ

おぼろ

おぼろ



あああああ

あああああ

—これは？

ああ……ツツツッ！
あうううツツツッ！！
グッ
ボ
ッ

膣と腸内に催淫剤と栄養剤、魔力を混合した液体を注入しています
これに必要な栄養素を補いつつ、疑似的に妊娠状態を作り出すことができます

くくく

このような処置を行えば
ほとんどインターバルを短縮して
体液の採取を続けることが可能です。

おっ…おっツツ
おんツツ…!!

おんツツ

おんツツ

おんツツ

このまま続けてくれたまえ
なかなかには割はよさそうだ

ブルブル

びくびく

びくびく



—その後もツキミは
貴重な体液を生産するために栄養を与えられ
生かされるだけの機械のような日々を送った



あ
ん
ん
ん

あ
ん
ん
ん

あ
ん
ん
ん

ぴん

し
ん
ん
ん

し
ん
ん
ん

ぴん

あ
ん
ん
ん

囚われたテイナはその希少な血統と容姿から多くの組織の間で高値で取引されていた。

——薄闇の中、拘束合に寝かされた
ティナにスポットライトが当てられ
下卑た歓声が響く——

——それでは皆様！
本日のショーの目玉はこちらです！
最強の血統を持つ少女ティナ！

市場に出てから時間が立つて
なお高い価値を誇る彼女を
奮発して仕入れさせていただきました！

……ジーン……

……ち……

……ちくしょう……

は……はなせえ……帰してえ……

「ご覧ください！
これまで家畜同然の扱いを受けて来てなお
この美しい体……そして壊れない心！
彼女ならばきつと皆様を満足させるショー
を見せてくれるでしょう！」

カニカ

ち……

—それでは交配ショーのスタート！
今日の「種」を務めるのはもちろん…
本ファームのエース幻獣麒麟！

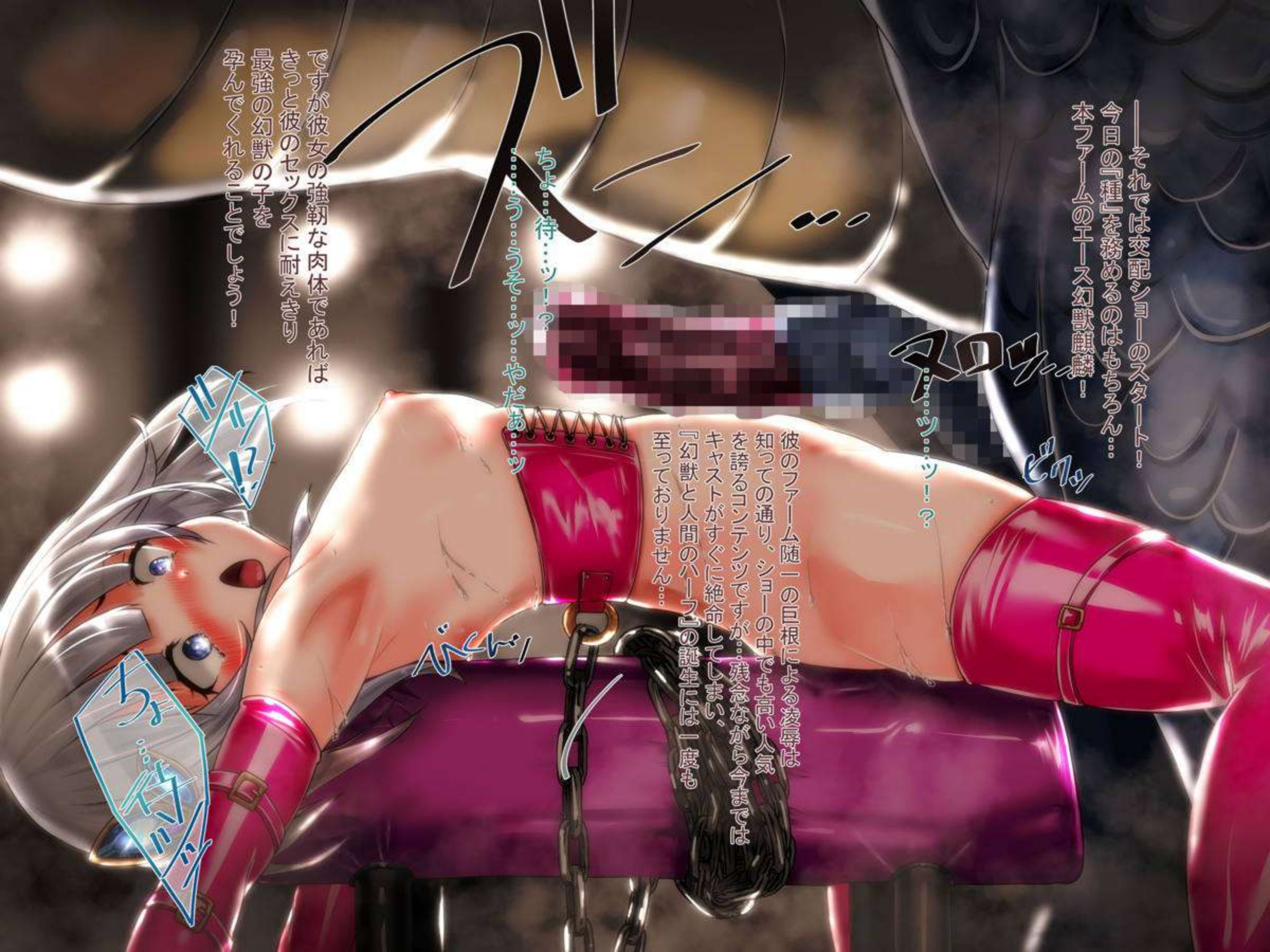
ズロツッ
ビロツッ
……ツッ…？

彼のファーム随一の巨根による凌辱は
知っての通り、ショーの中でも高い人気
を誇るコンテンツですが…残念ながら今までは
キャストがすぐに絶命してしまい、
『幻獣と人間のハーブ』の誕生には一度も
至っておりません…

ちよ…待…ツッ…？
……ツッ…おだる…

ですが彼女の強靭な肉体であれば
きっと彼のセックスに耐えきり
最強の幻獣の子を
孕んでくれる…ツッ…

ちよ…待…ツッ…？
……ツッ…おだる…



おっつこ興奮くん!!
前戯も無しに
いきなり体重を掛ける!!

コ
コ
コ

じ
ち
っ

……ぐんぐん……やあ……んんん……
む……ムリい……んん……

ペニスはティナちゃん
の腕以上の太さがあり
ます!
セックス慣れして
いるとはいえ、
彼女のサイズでは
さすがに厳しいか
なかなかりません!

ぐんぐん……あぐ……んん……?
……まっ……はあッ……入らな……んん

やあ!!
は……んん……んん……





ホッポッ

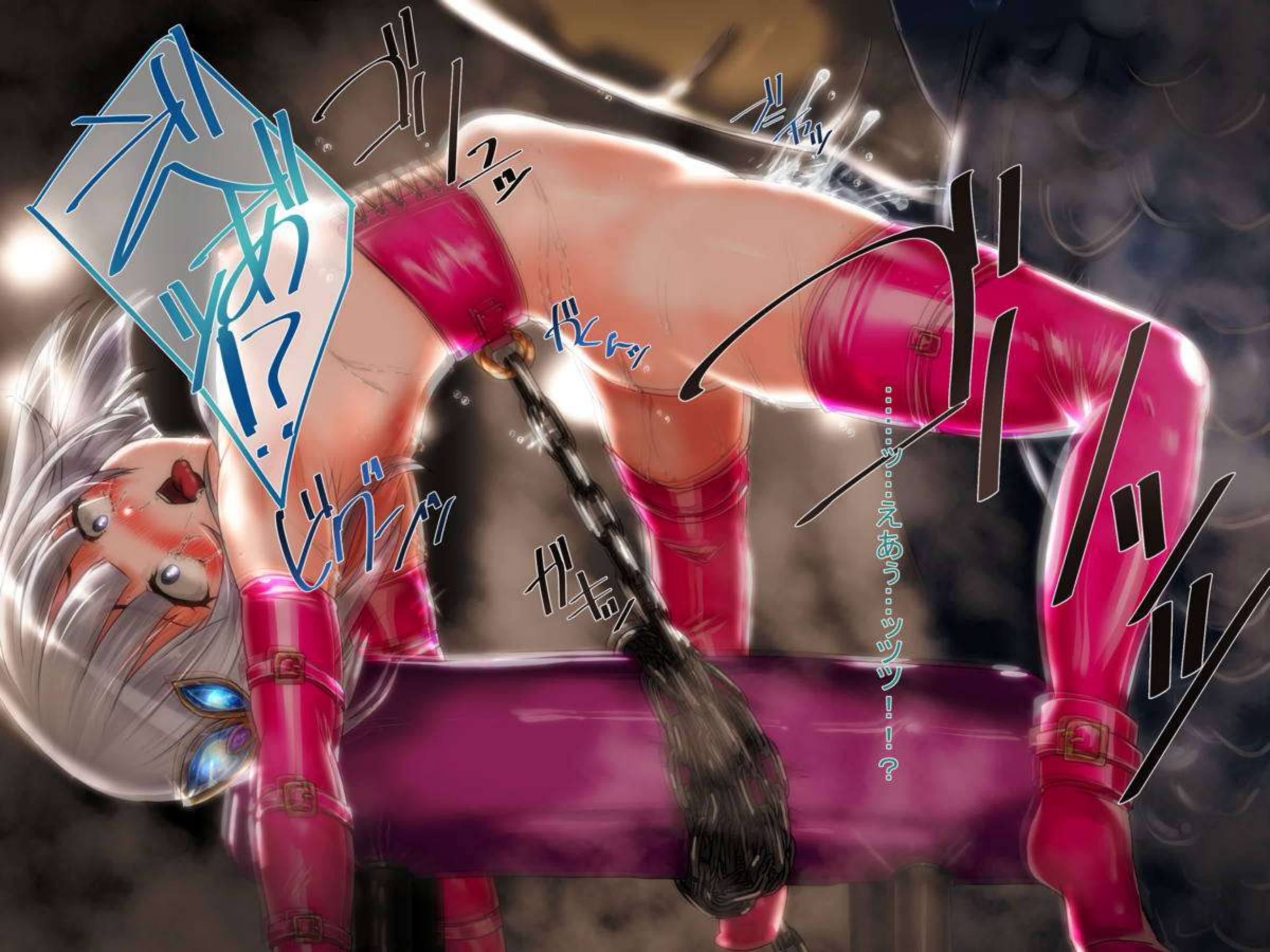
ガクッ

おっ!

おっ

.....

おお!
一気に入りました!
なんと一息に根元まで挿入された
ペニスによって腹の形が変わっています!



ジュウッジュウッ

ジュウッ

ジュウッ

ジュウッ

ジュウッ

ジュウッ

ジュウッジュウッジュウッジュウッ

ジュウッ

— 時間後

おおおっ……お……ミン……
オ……おぐツツ!!

……お……ツツ……
……お……ん……ツツ!!

ああんんせ!
子宮に入りきれない精液が
あふれ出してきました!!

しかしティナちゃん!
全身を痙攣させつつもまだ生きています!
我々はいかに凶獣の子を目の当たりに
することが出来るかもしれません!

ん

ああんんせ!

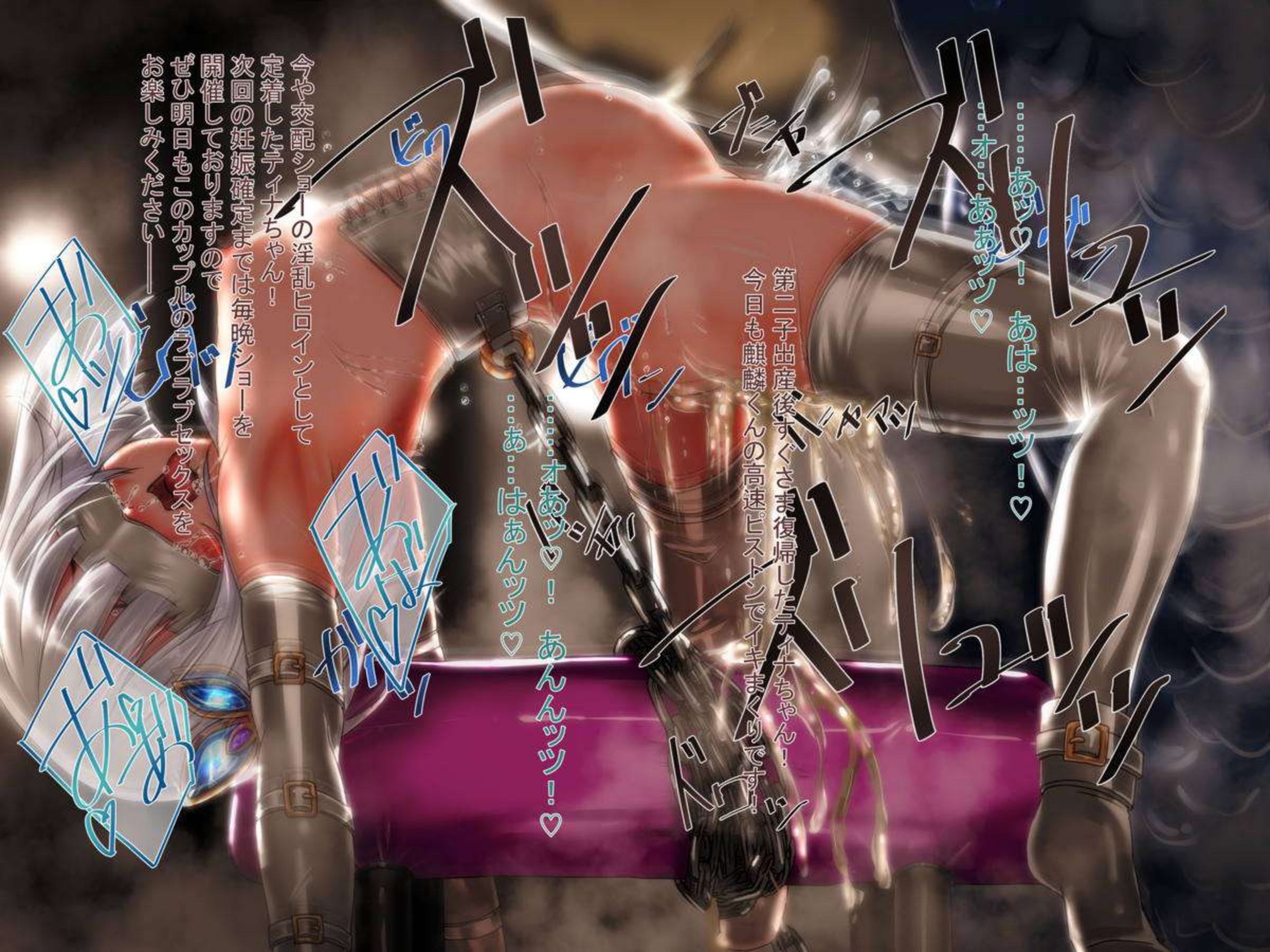
ああんんせ!

ああんんせ!



—

—
年後



今や交配ショーの淫乱ヒロインとして
定着したテイナちゃん！
次回の妊娠確定までは毎晩ショーを
開催しておりますので
ぜひ明日もこのカンプルのラブラブセックスを
お楽しみくださいー

アッ

……あッ！
……オッ……あッ……
あは……ッ……♡

第二子出産後すぐさま復帰したテイナちゃん！
今日も麒麟くんの高速ピストンでイキまくりです。

……オッ……あッ……♡！
……あ……はあんッ……♡
あんんッ……♡

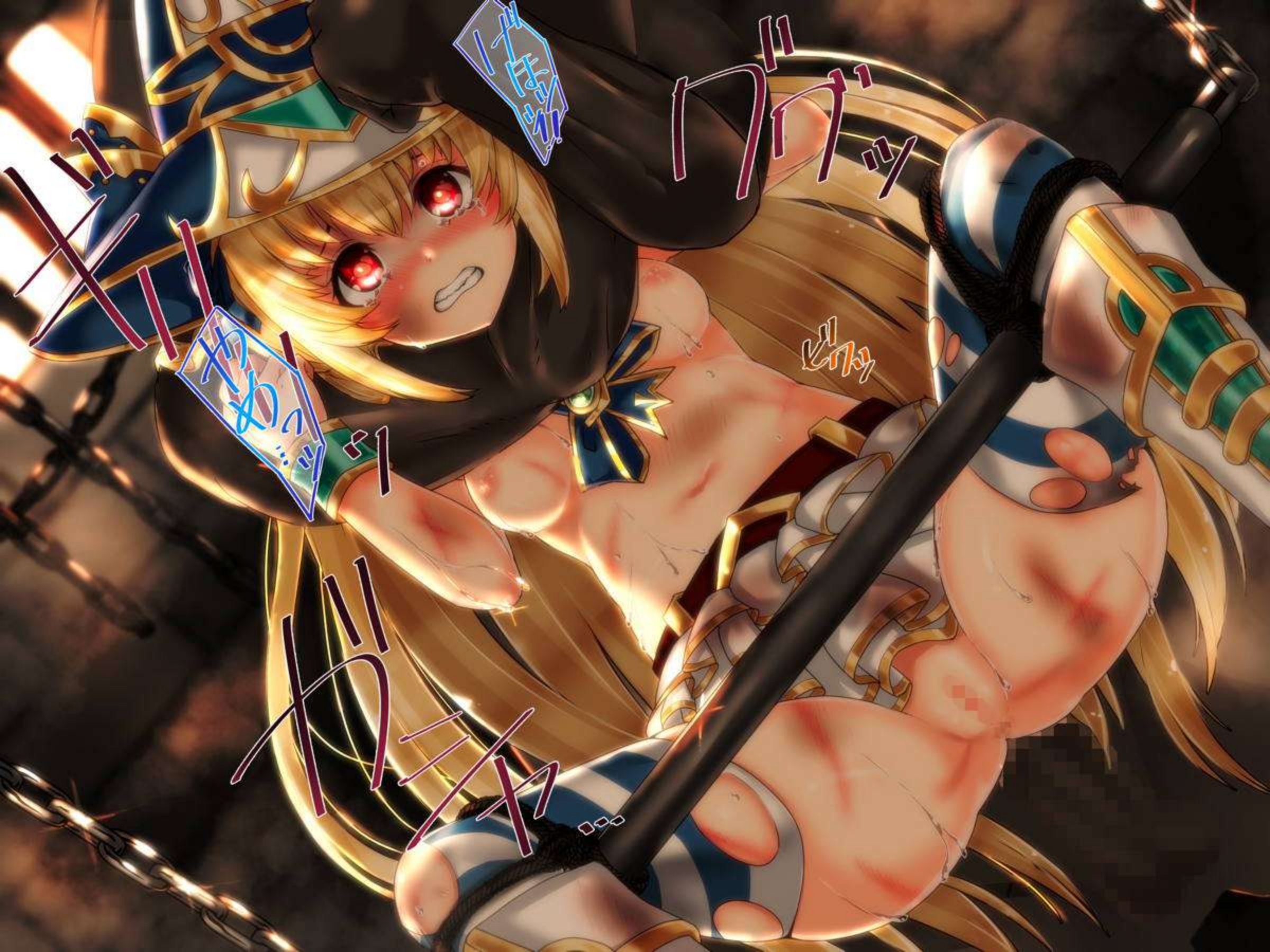
あッ
あッ
あッ

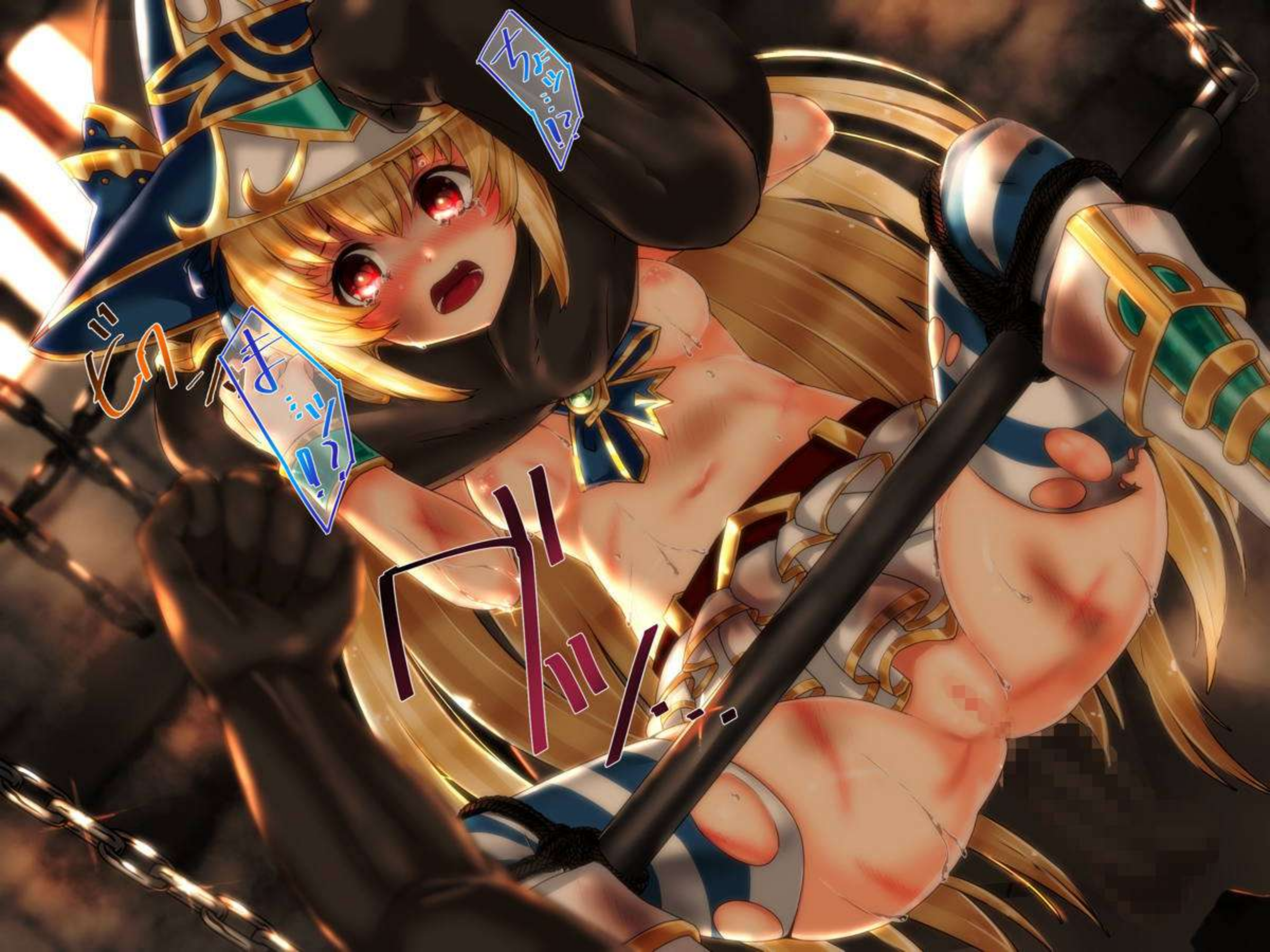
あッ
あッ
あッ

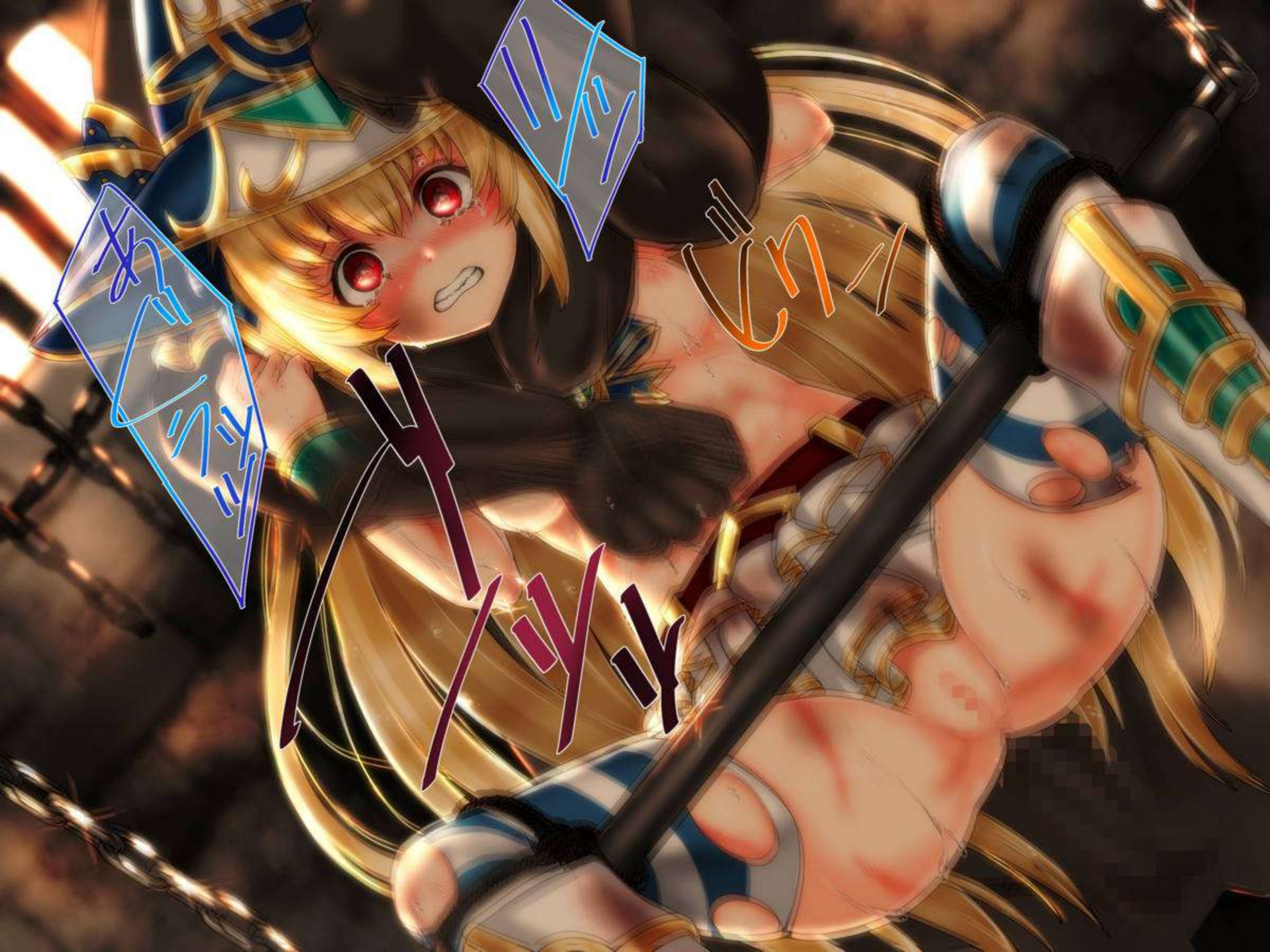
あッ
あッ
あッ

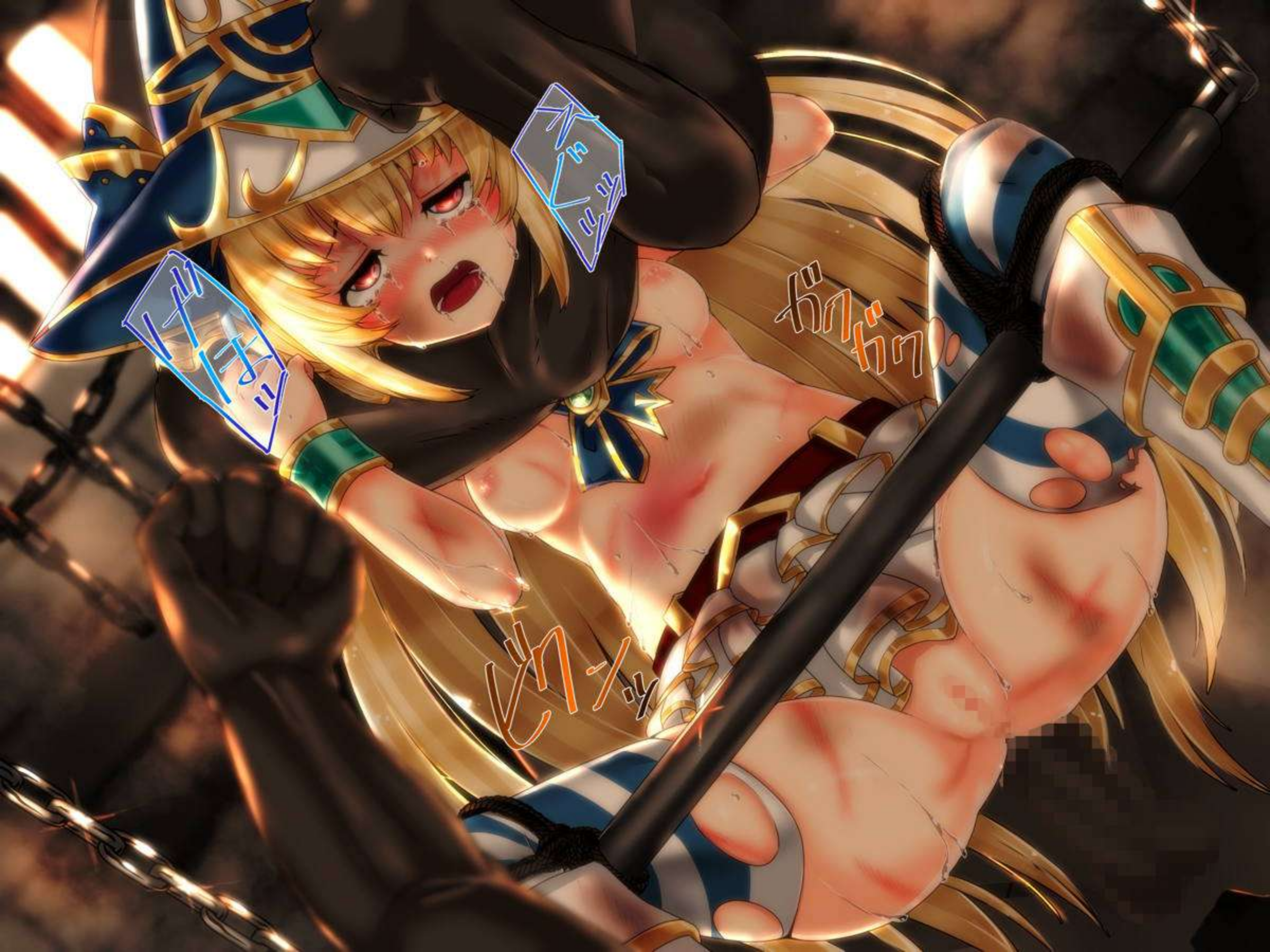
あッ
あッ
あッ

ハルカは「闇」傘下の人身売買組織に潜入し、
囚われた子供たちを助け出した。
しかし彼女自身は彼らが逃げ切るための時間を稼ぐため、
追手と戦い敗北してしまっ——









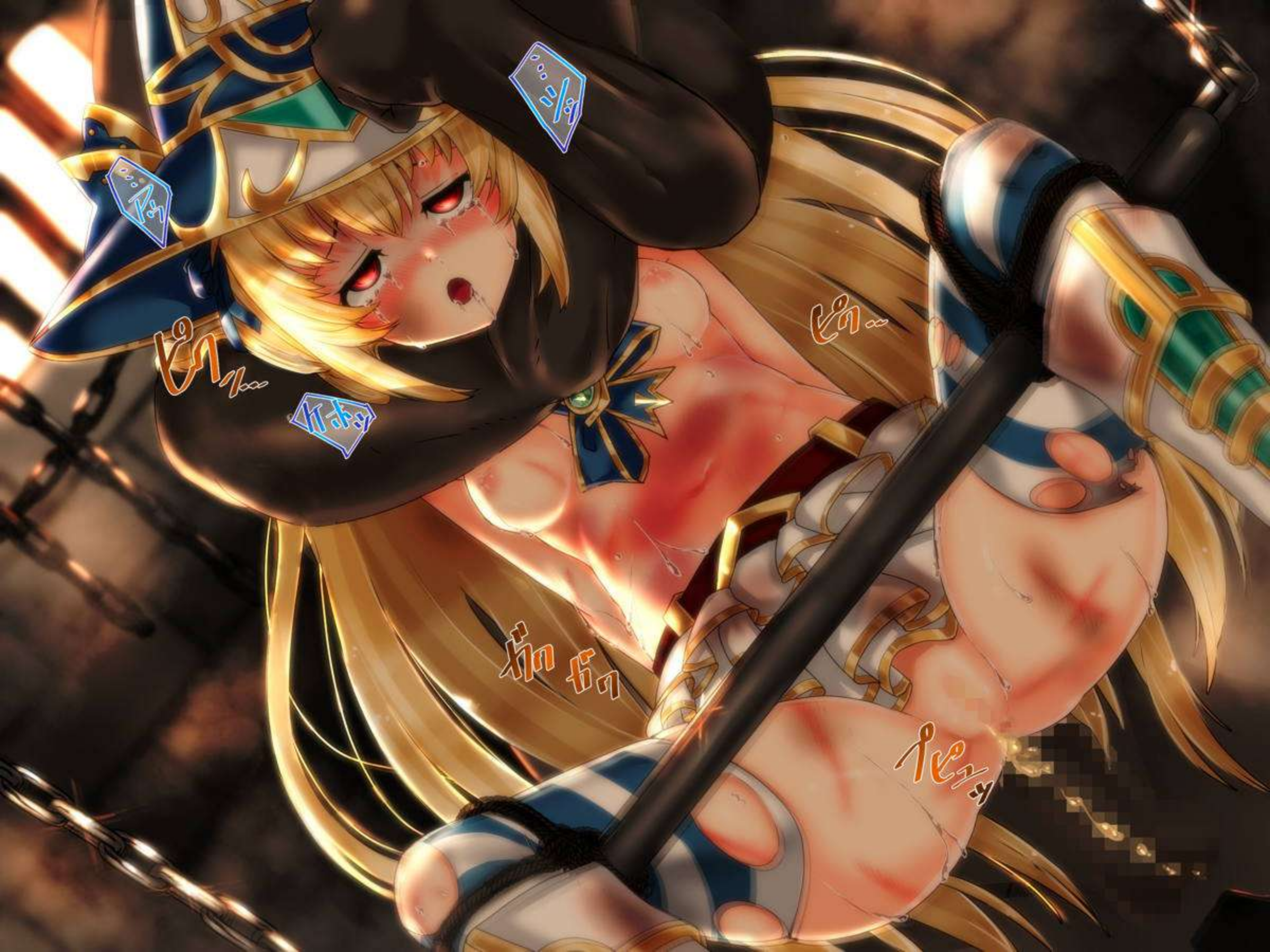
Handwritten blue scribbles on the character's face and hat.

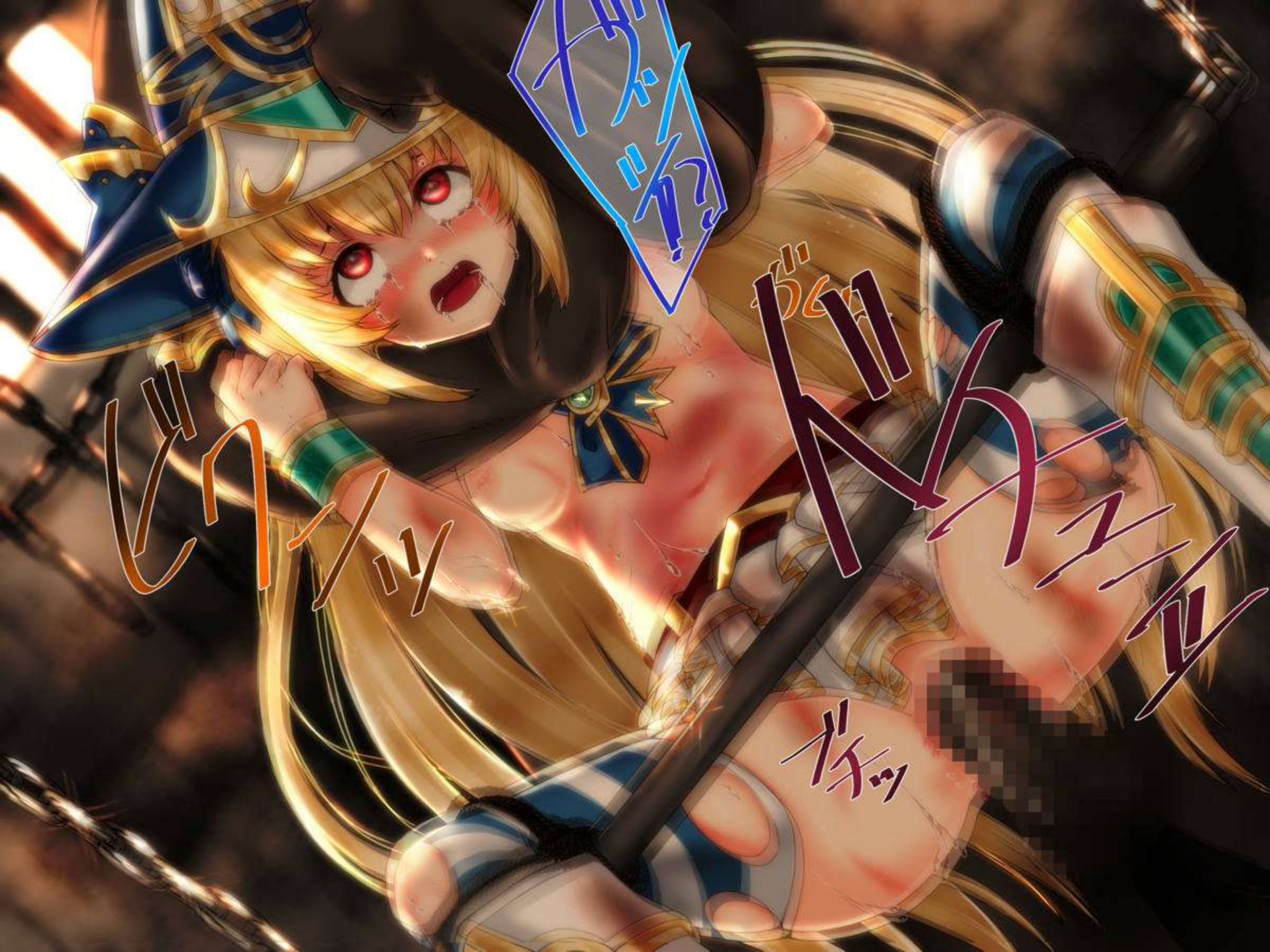
Handwritten blue scribbles on the character's hat.

Handwritten orange scribbles on the character's chest.

Handwritten orange scribbles on the character's chest.







あぶつかん!

か
か
か
か
か

か
か
か
か
か

か







アキ

アキ

アキ

アキ



הוא מביט בך
באופן
מבועבוע

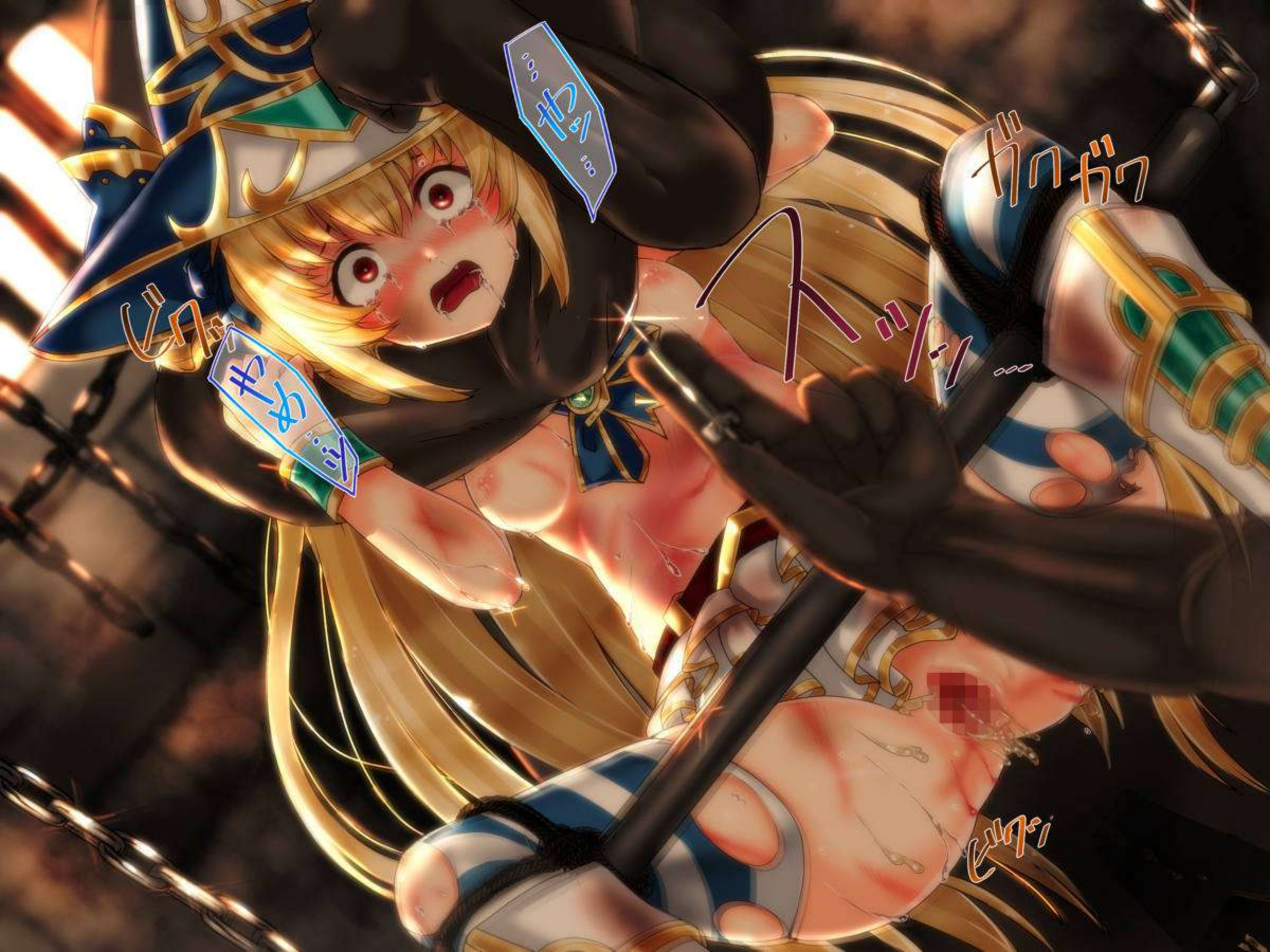
הוא מביט
בך באופן
מבועבוע

הוא

הוא

הוא

הוא מביט
בך באופן
מבועבוע



あ
あ
あ

あ
あ
あ

ア
ア
ア

あ
あ
あ

あ
あ
あ



めは
は
♡

は
は
♡

は
は
♡

は
は

は
は
は
は
は

は
は

は
は

は
は
は
は



闇に襲撃され、扉のルーンで辛くもその場を逃れたエシリア。
しかしそれは買だった――

扉のルーンの行き先は強力な魔物の巢の最深部に固定されており、
彼女は魔物に捕えられてしまった。





キ
キ
キ

キ
キ
キ

キ
キ
キ

キ
キ
キ







Am

Am

Am

Am







スミレ

スミレ

スミレ

スミレ

スミレ

スミレ

スミレ



スライム

スライム

スライム

スライム

スライム



انزومار

شاه

الملك
الملك
الملك

الملك

الملك
الملك
الملك

الملك

完全に意識を失ったエシリアを魔物はなおも犯しぬき、
やがて体内に取り込むと行方をくらました。

「彼女の」とだから、いつもの気まぐれだろう」

そんな考えとは裏腹に、

彼女が再び飛行島を訪れる」とは二度となかったのだった。

「——やっと追いつきました
私の国で随分と好き勝手してくれましたね」

「——これはこれはエクセリア王女
私のような一介の魔術師に何か「用が？」

「言い訳は聞きません
あなたが魔物を使役して女性たちを
攫っていた」とは調べが付いています」

「一国の姫だということにお召し物のその汚れよう——
見張りは全て切り伏せてきた——というわけですか」

「ええ——もう逃げ場はありません
おとなしく投降してください」

「と「ろでいつもともに居る白い竜
それからあの赤い男はど「へ？」

「答える必要は——」

「——あなたを「」に行かせるために
足止めをしているのでしょうか？」

「——な、なぜそれを」

「——エクセリア王女
一人で「」に来たのは悪手でしたね
生憎「」はわたしの腹の中だ——」



操!

何?!

ククク

ビク

ビク

ククク



はははは

あ...

ははは

あや

ははは...

ははははは

ははは



Hand-drawn blue annotations including a large question mark and exclamation point, and various lines pointing to specific parts of the character's body.

Hand-drawn purple annotations including a large question mark and exclamation point, and various lines pointing to the character's head and upper body.

Hand-drawn purple annotations including a large question mark and exclamation point, and various lines pointing to the character's right arm and shoulder.

Hand-drawn red annotations including a large question mark and exclamation point, and various lines pointing to the character's lower body and legs.



あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ...



Handwritten blue text: 大ダメージ!

Handwritten purple text: すごい

Handwritten red text: すごい

Handwritten red text: すごい



ハハハ

ハハハ

ハハハ

ハハハ

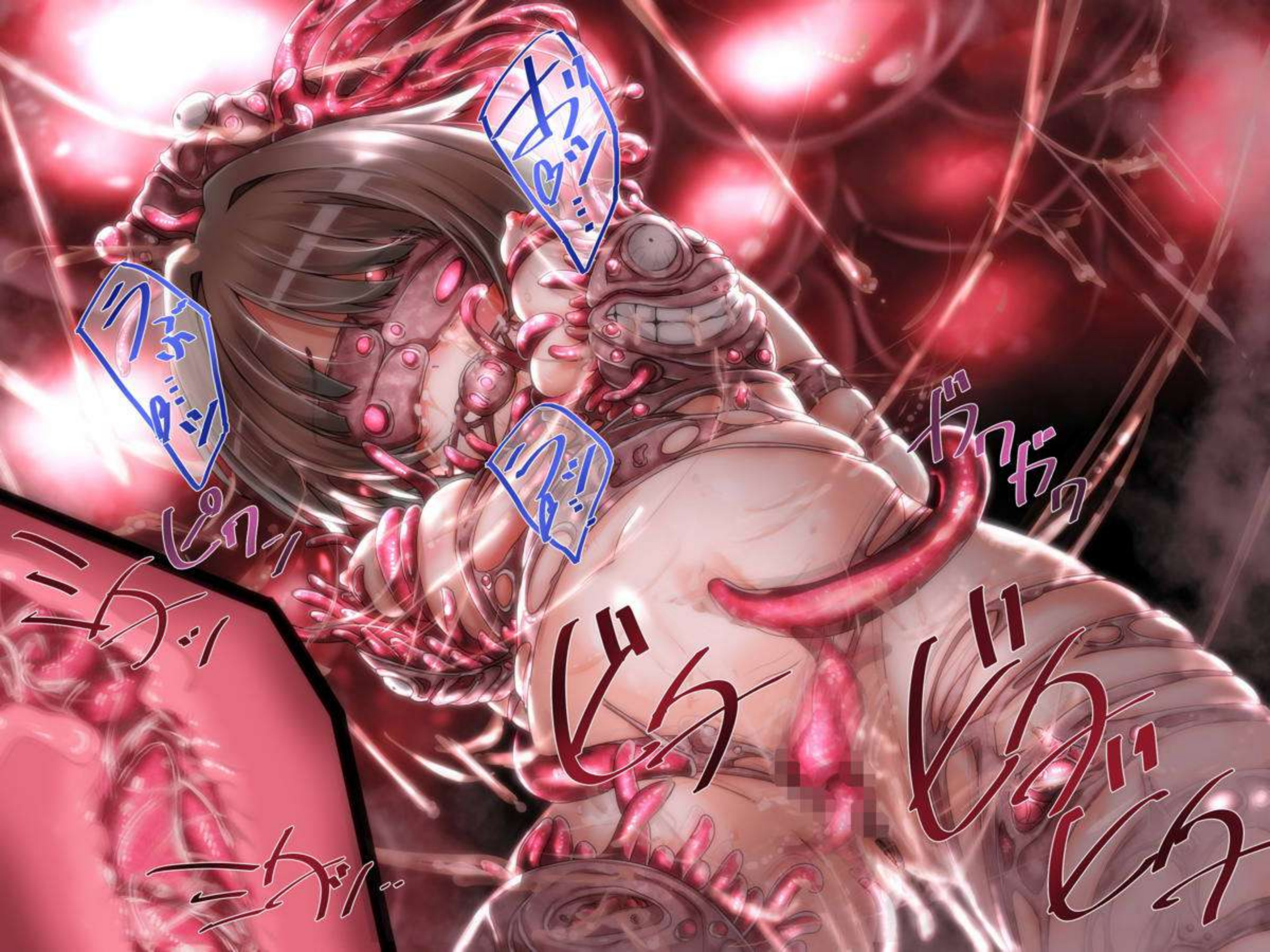
ハハハ

ハハハ

ハハハ

ハハハ

ハハハ



おはーい

おはーい

おはーい

おはーい

おはーい

おはーい

おはーい

おはーい

おはーい

おはーい

彼女が嫦娥の一族の生き残り――
ツキミ・ヨゾラです

おお、これが
しかし肝心の『寿命を譲渡する力』は
失われているのだったか……

ええ。人質や拷問といった様々な手段を講じたのですが
どういうわけか正体不明の力に阻まれてしまい……

そうか――
それは残念だ

しかし、かの一族の肉体の特殊性には
多くの利用価値があります――



わんわん
わんわん
わんわん

FW

わんわん
わんわん

わんわん

わんわんわんわんわんわん

わんわん



びしょ

びしょびしょ
びしょびしょびしょ

あめ

びしょ



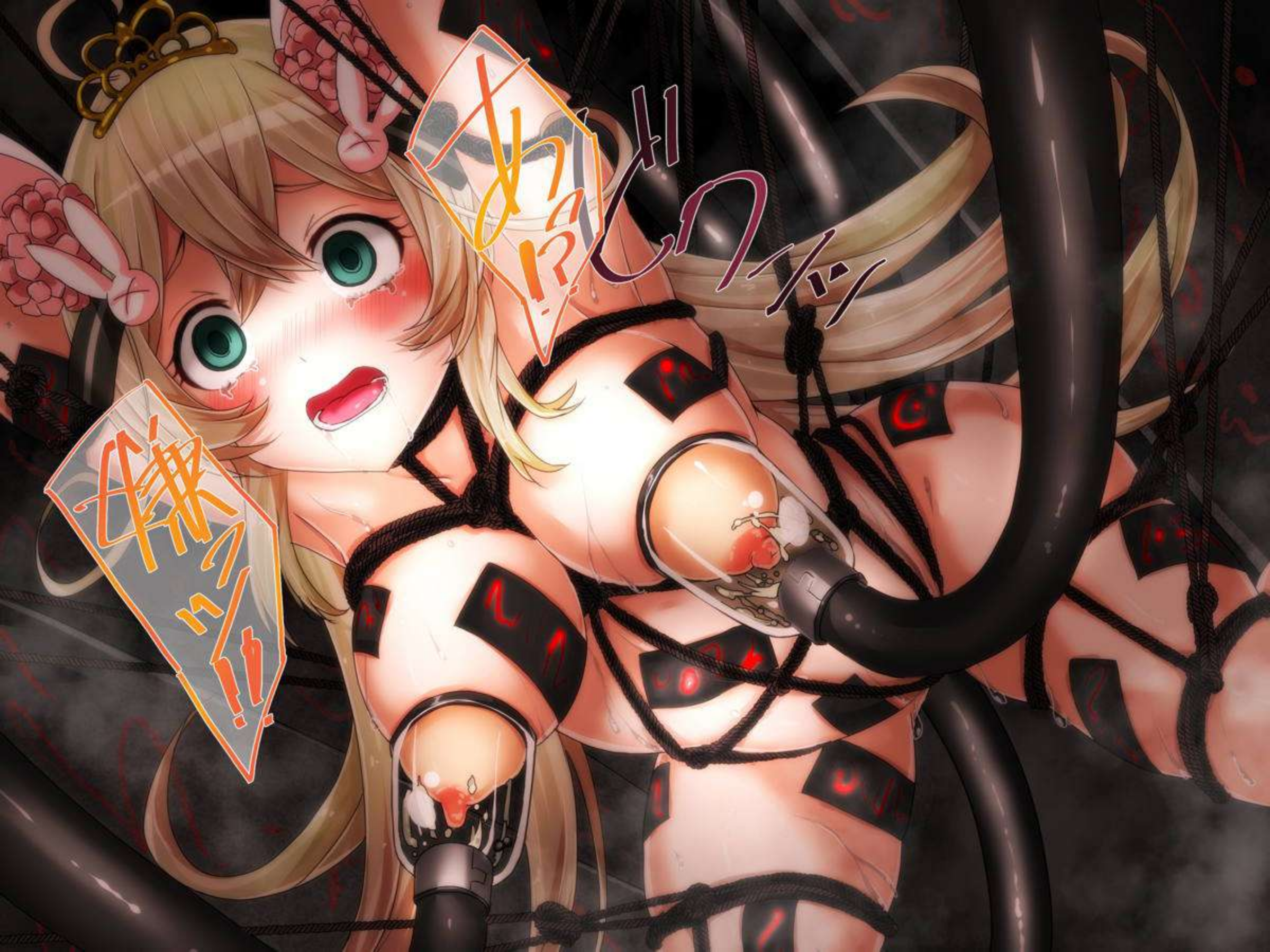


おはよう
おはよう

おはよう
おはよう

おはよう
おはよう

おはよう
おはよう



おっぱい!

アゲアゲ!



Handwritten Japanese text in a yellow scribbled box, possibly reading "おっぱい" (nipples).

おっぱい (Nipples)

おっぱい (Nipples)



ああああ

ああああ

びびびび

くくく



びびん

びびん

びびん

びびん

ぐわん

ぐわん

ぐわん

ぐわん



ア
ハ
ハ
ハ

ハ
ハ
ハ
ハ

ハ
ハ
ハ
ハ

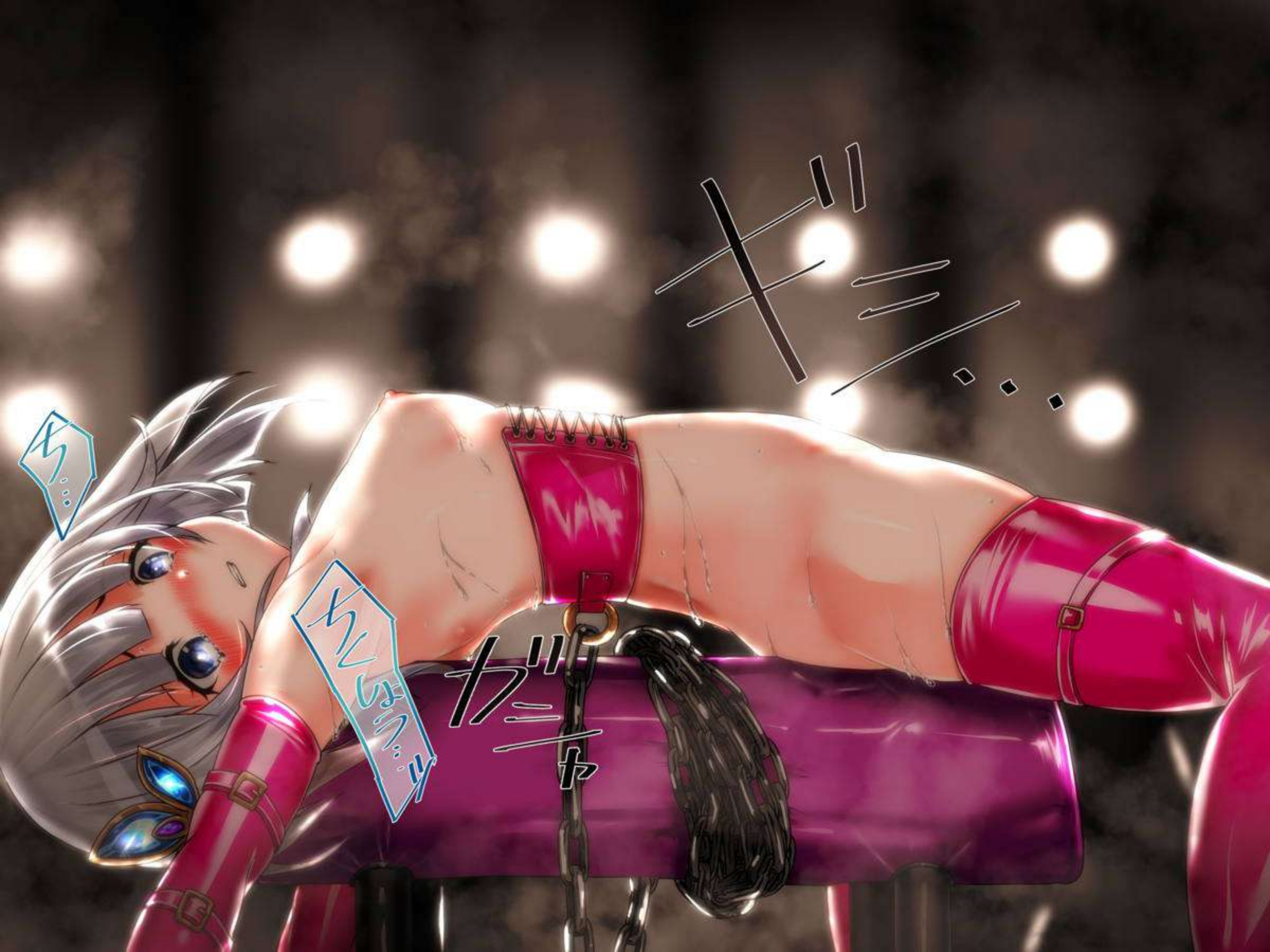
ハ
ハ

ハ
ハ
ハ
ハ

ハ
ハ
ハ
ハ

ハ
ハ

囚われたテイナはその希少な血統と容姿から多くの組織の間で高値で取引されていた。



ち...

ちんぽんぽん...

カニカ

カニカ



ス...

ア...

ア...

ア...

ア...

「ハハハ」

ぷるぷる

「ヒッ」

びん

「ハッ」

「ハッ」

「は...ハッ」





ホッ

ハッ

ハッ

ハッ

ハッ!
ハッ!
ハッ!



グロテスク...

グロテスク

グロテスク

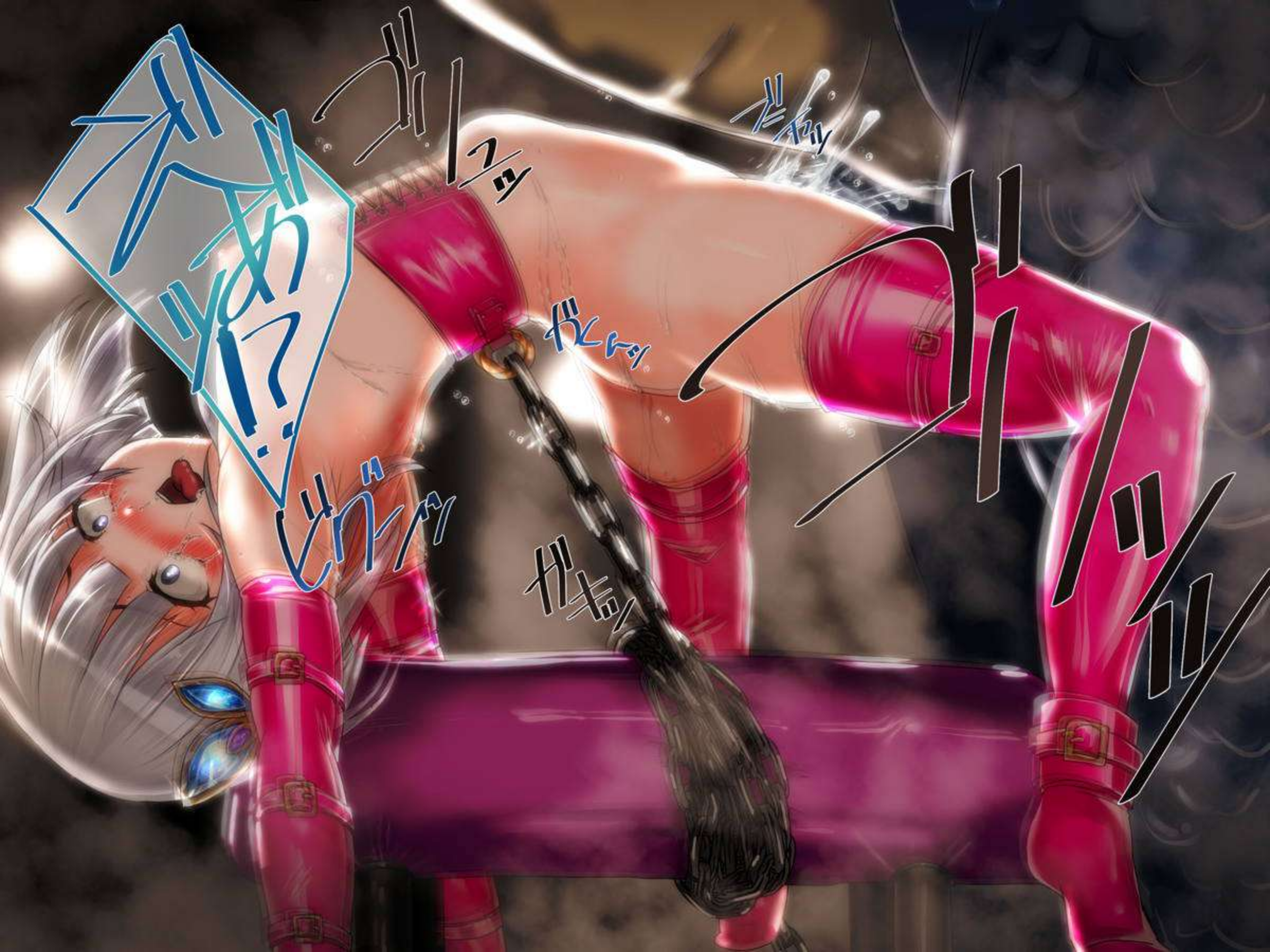
グロテスク

グロテスク

グロテスク

グロテスク

グロテスク





黒髪

髪

髪

髪

髪

髪

髪

髪

髪

髪

髪

髪



アッ

ホッ
アッ

アッ

アッ

アッ

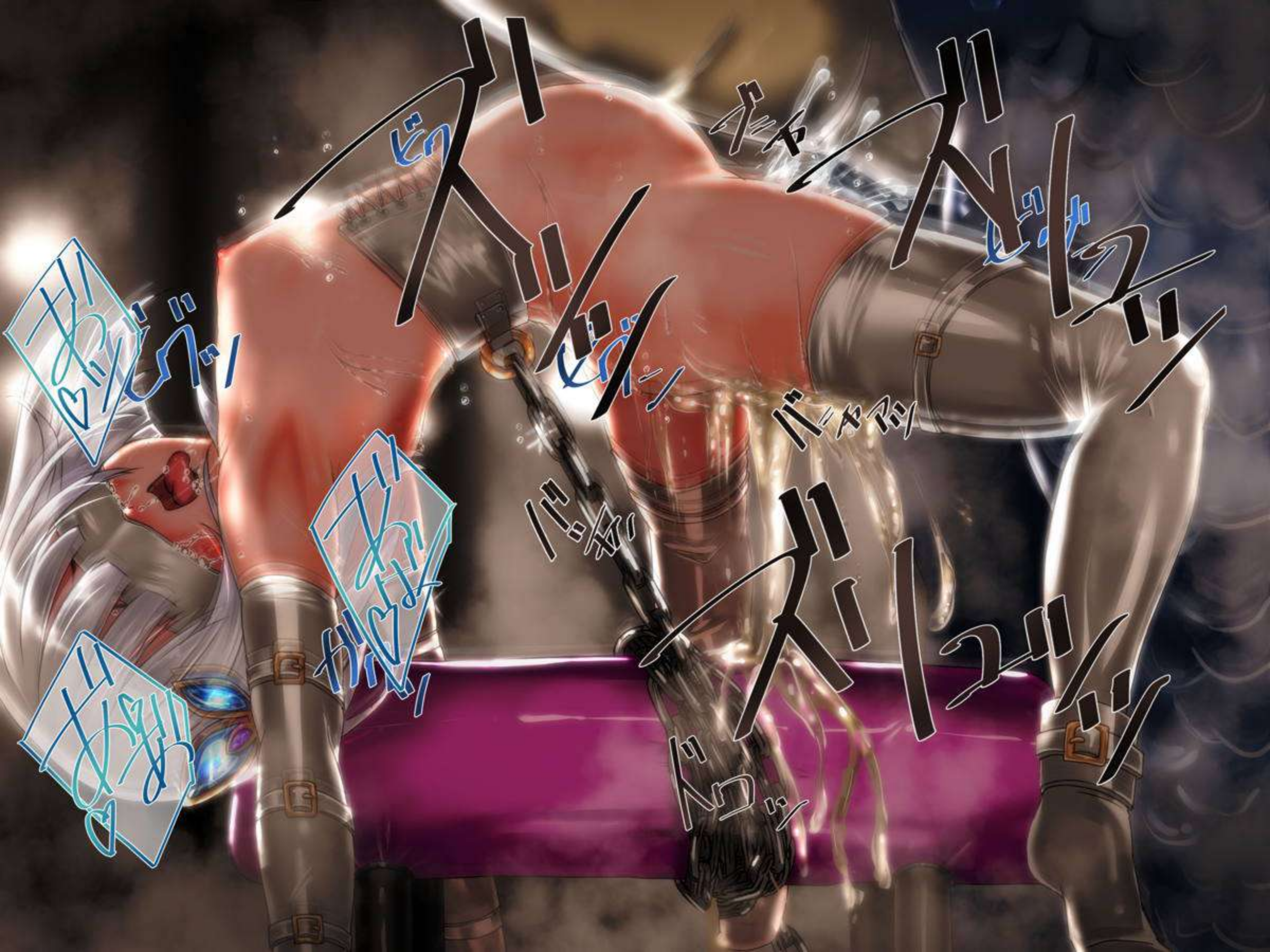
アッ

アッ

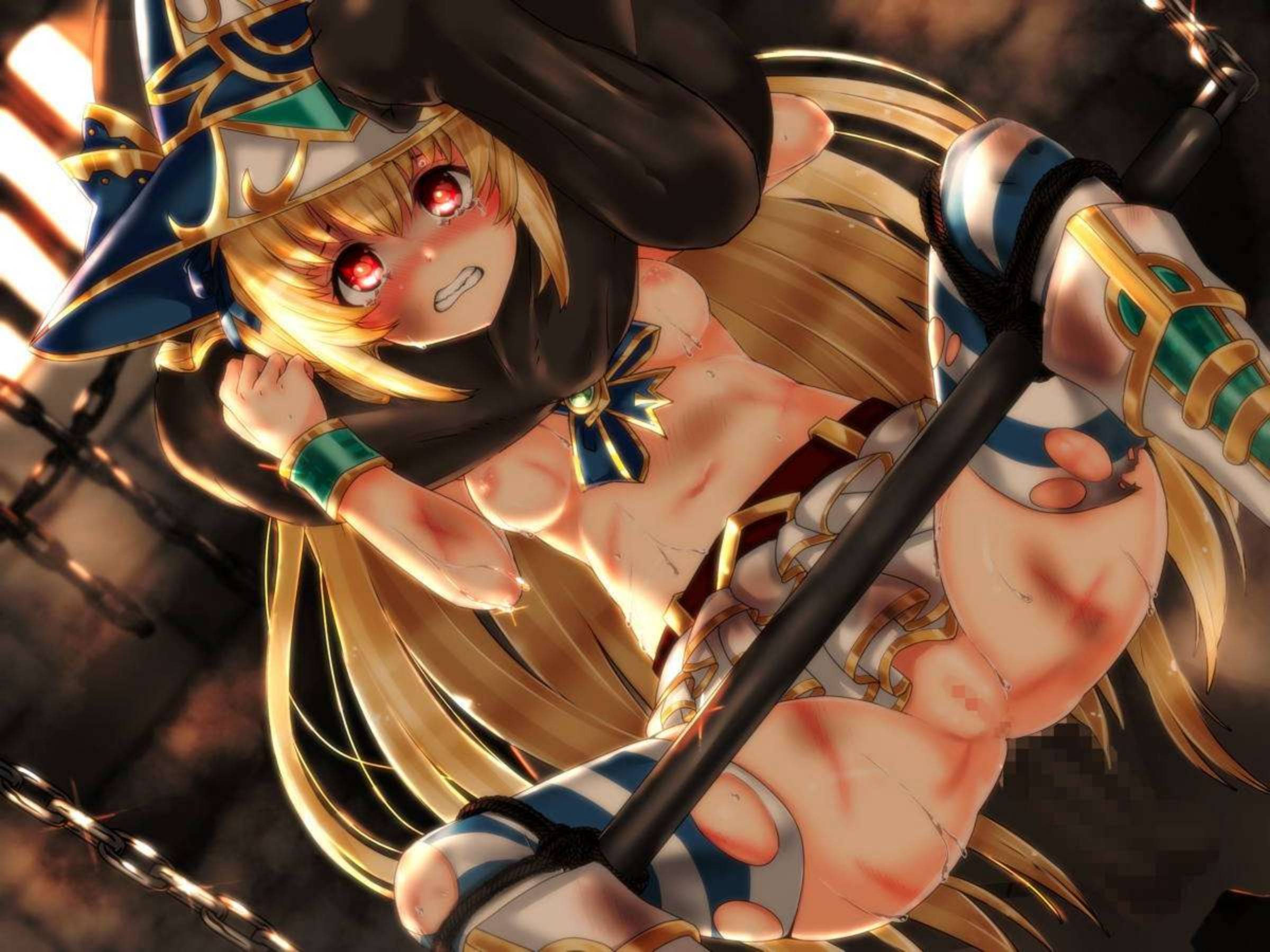
アッ

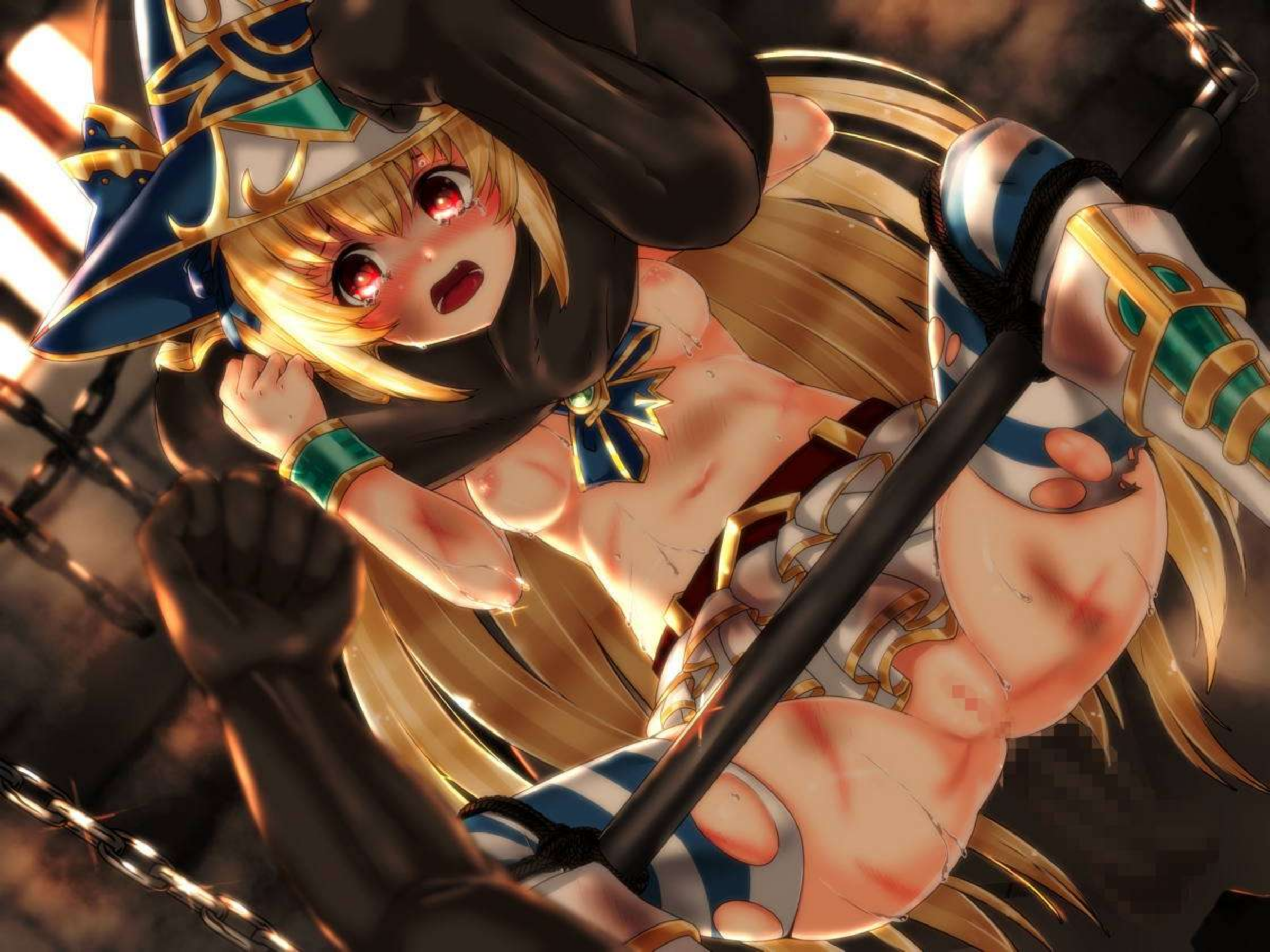
アッ
アッ
アッ

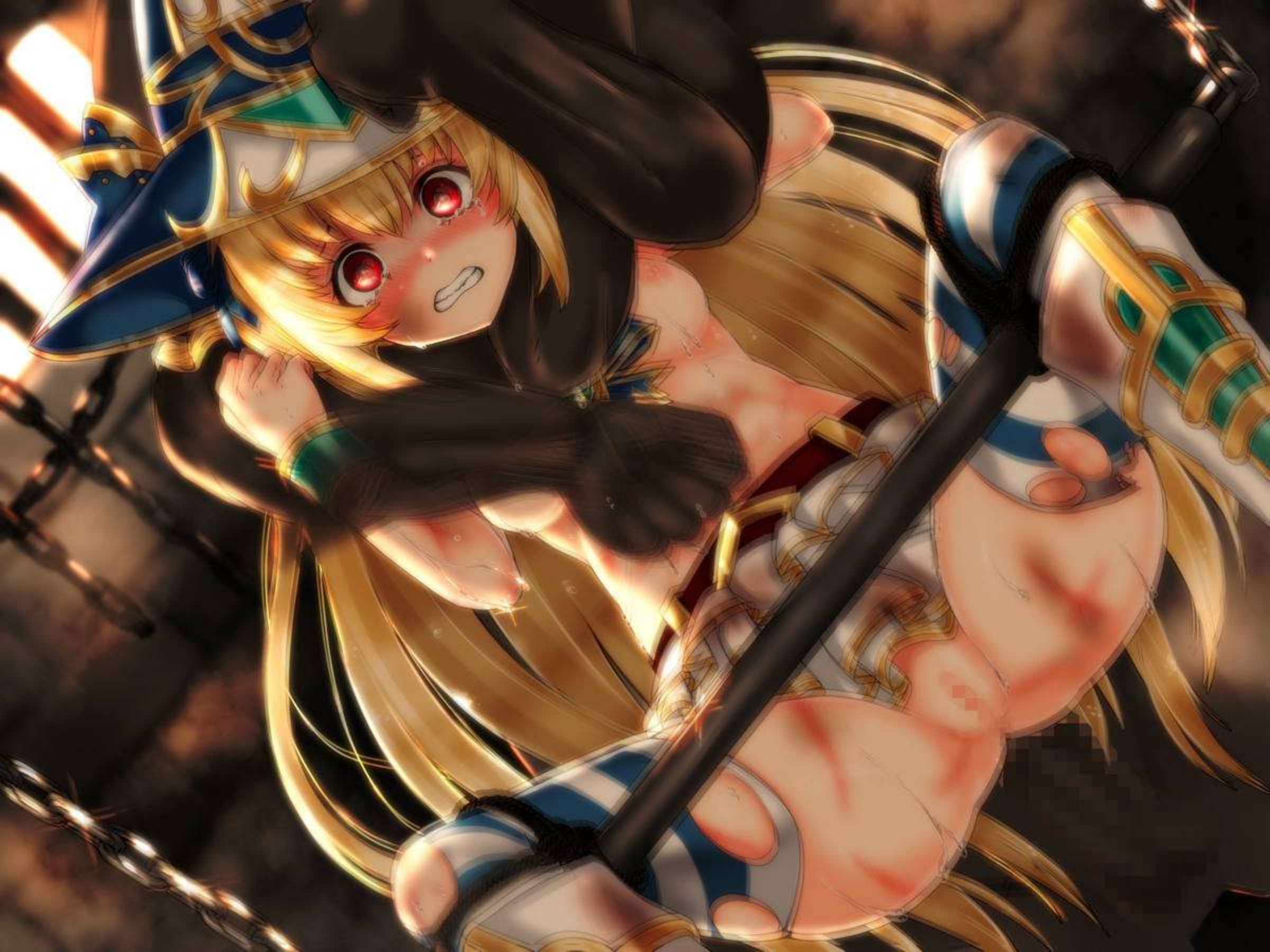
アッ

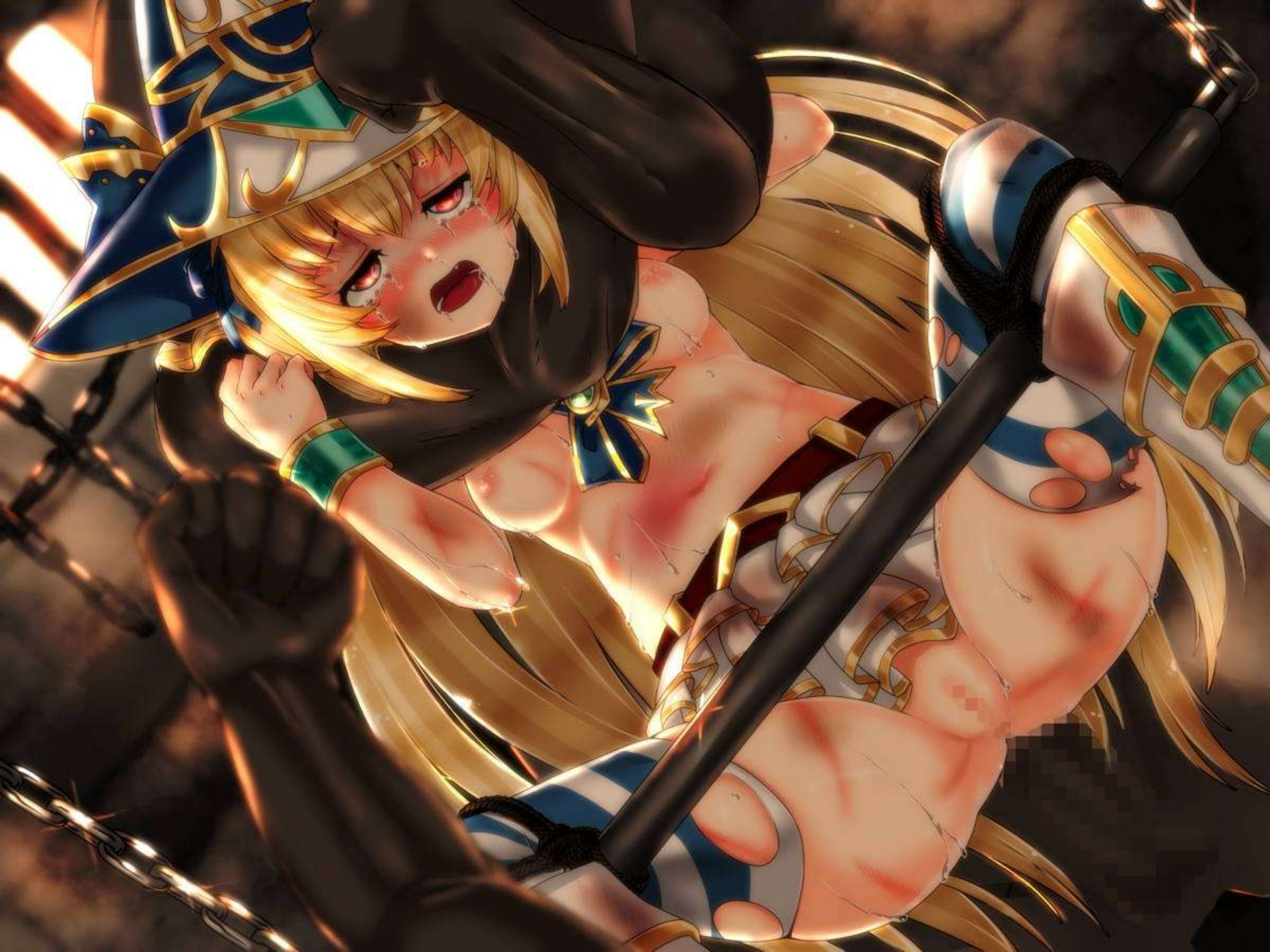


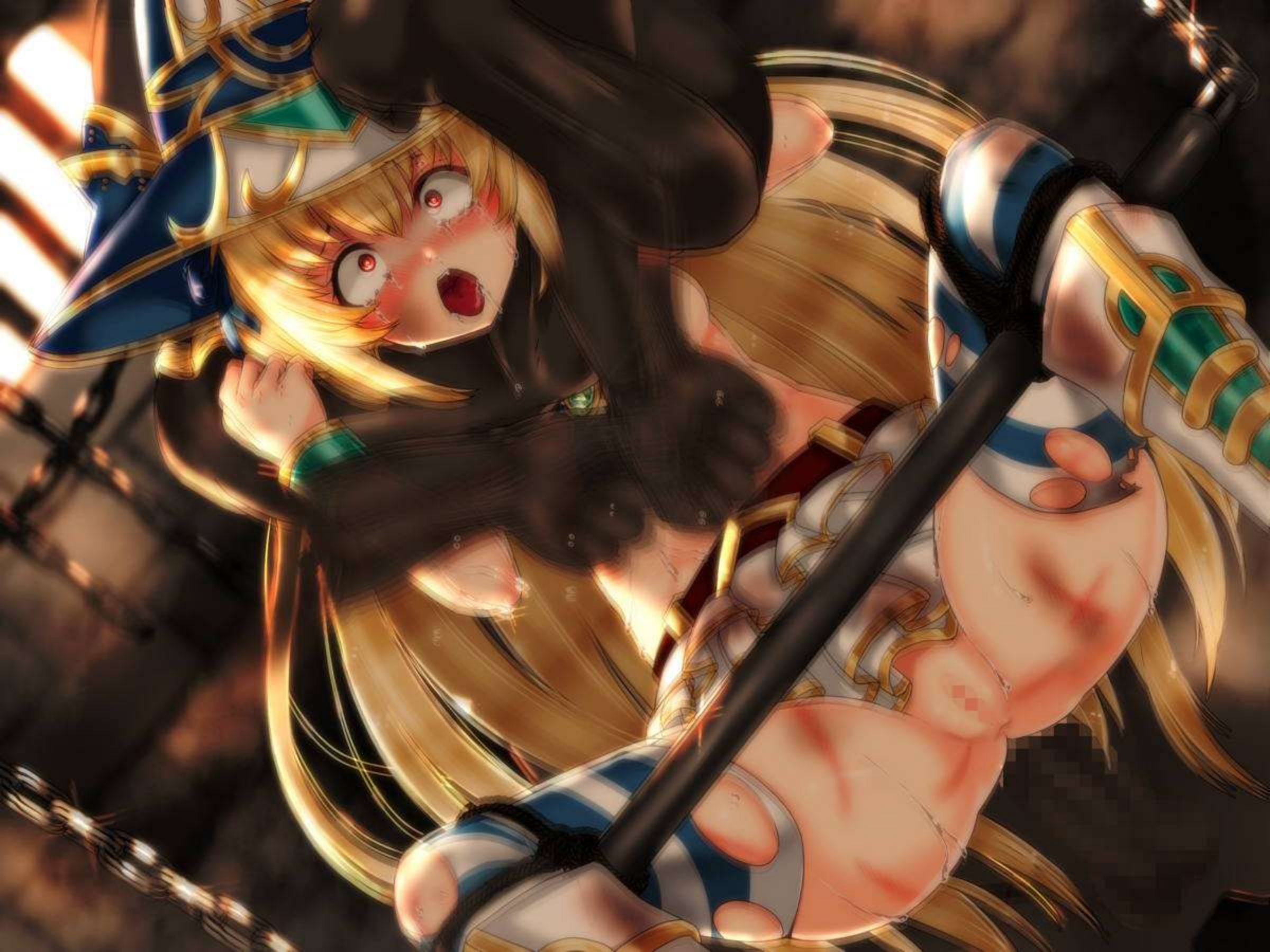
ハルカは「闇」傘下の人身売買組織に潜入し、
囚われた子供たちを助け出した。
しかし彼女自身は彼らが逃げ切るための時間を稼ぐため、
追手と戦い敗北してしまっ——

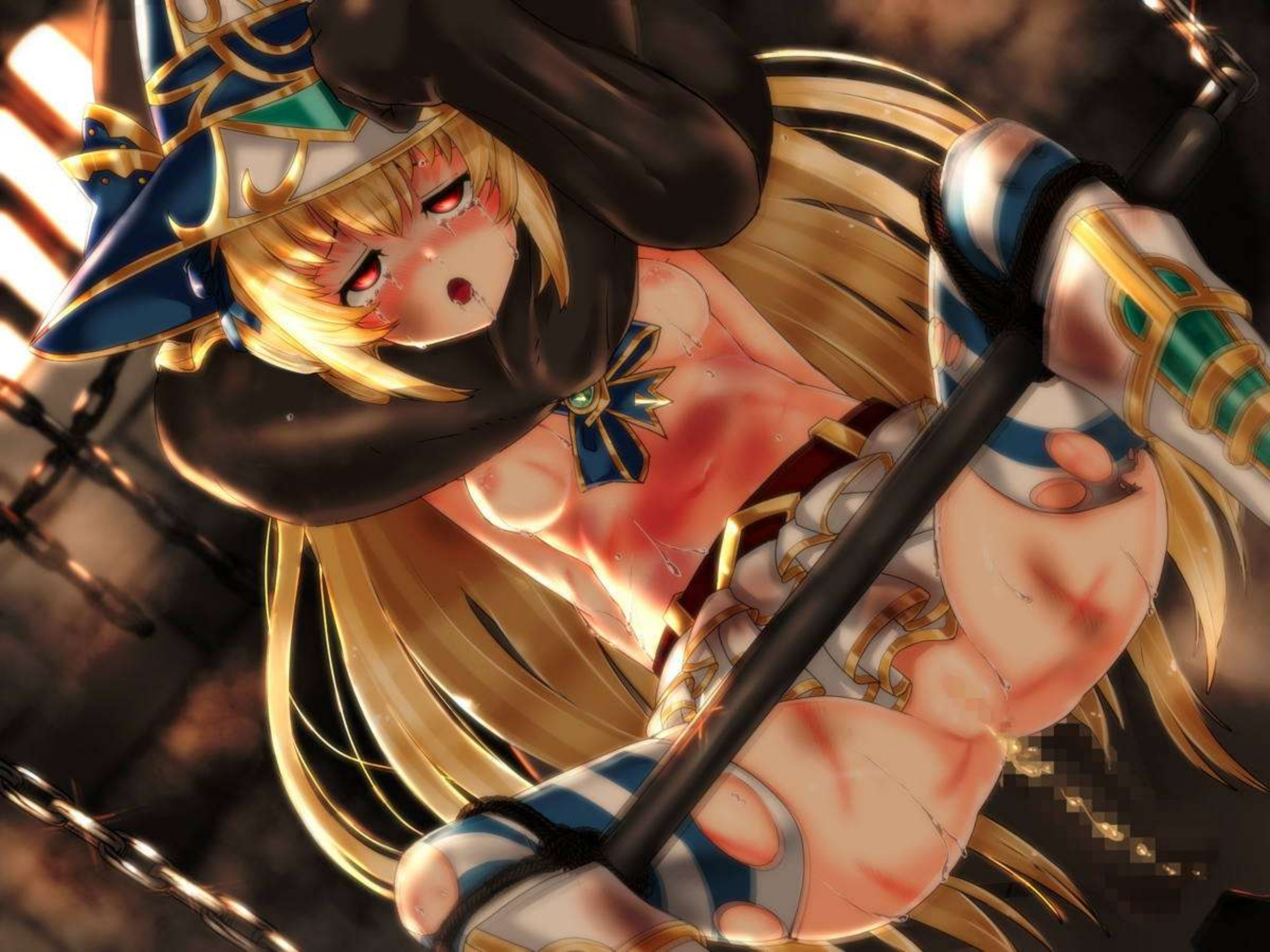


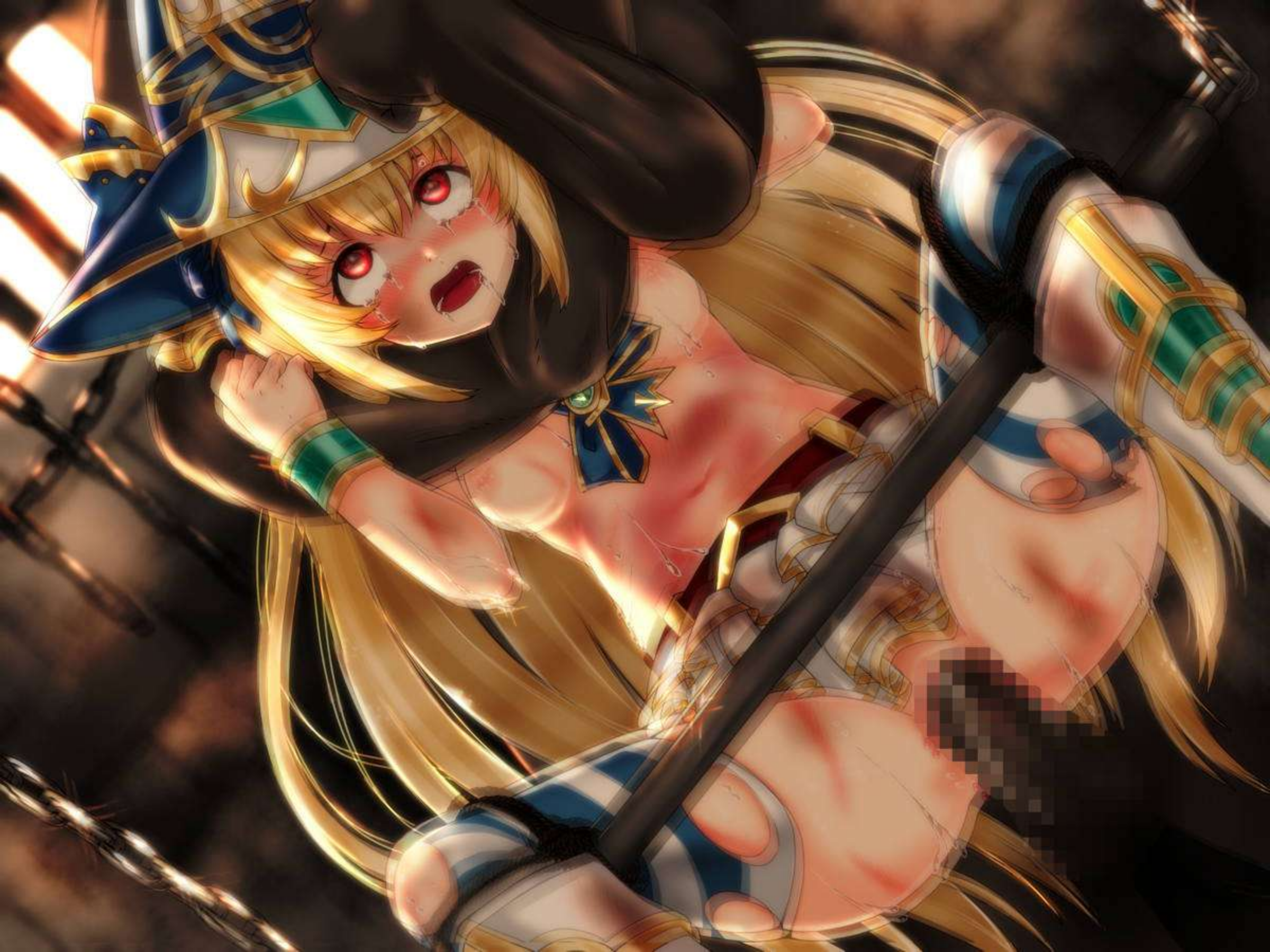




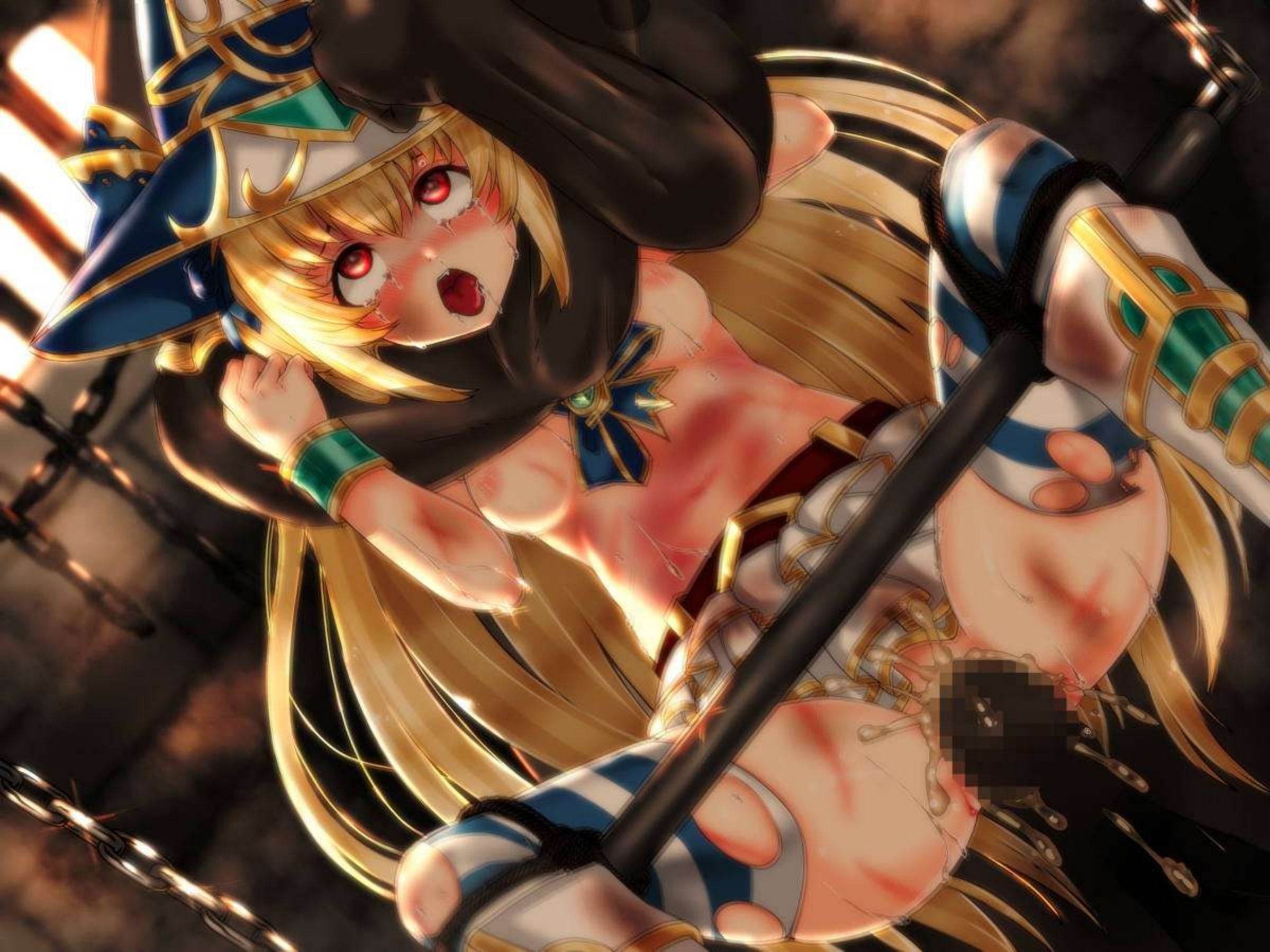


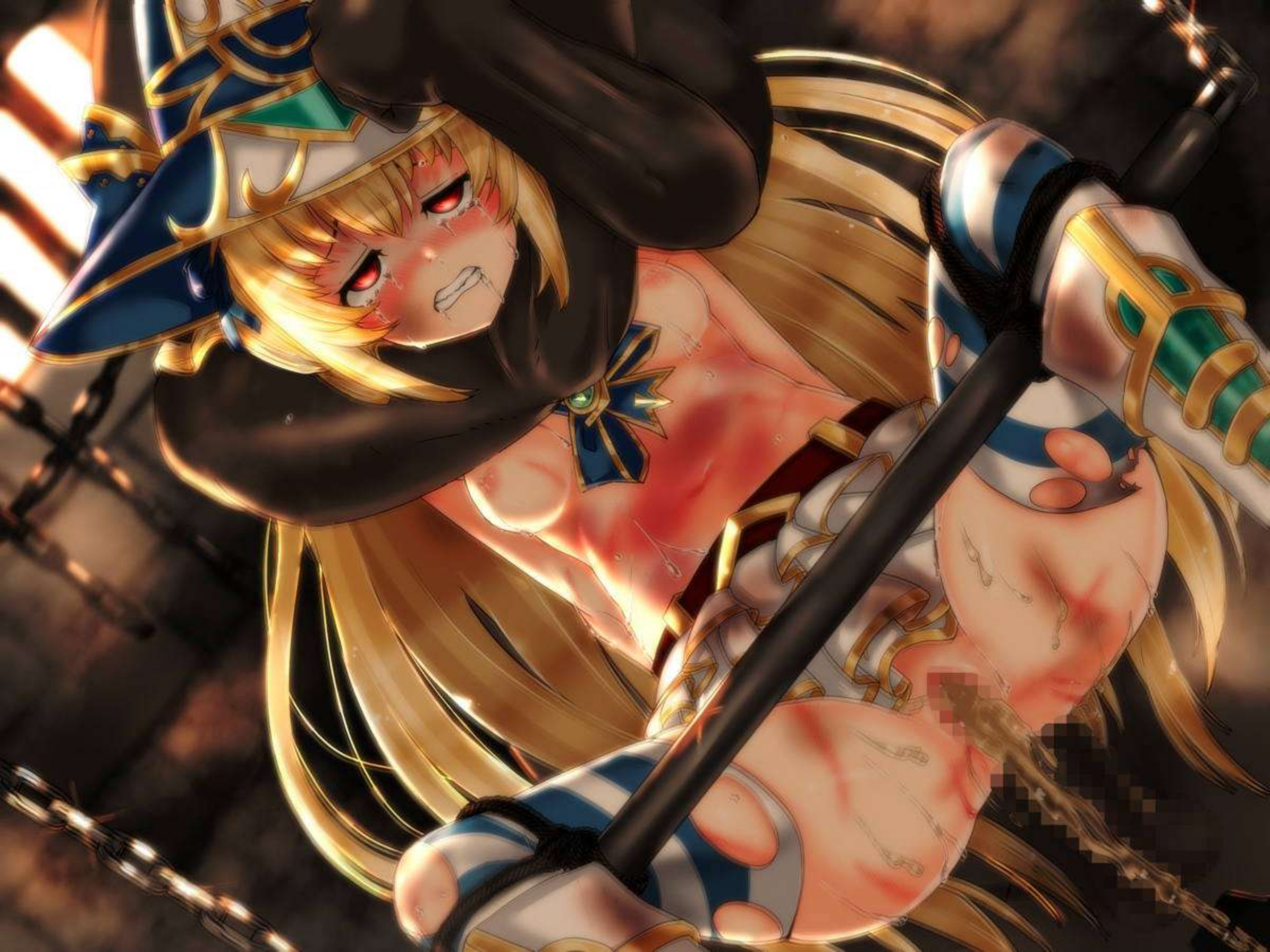


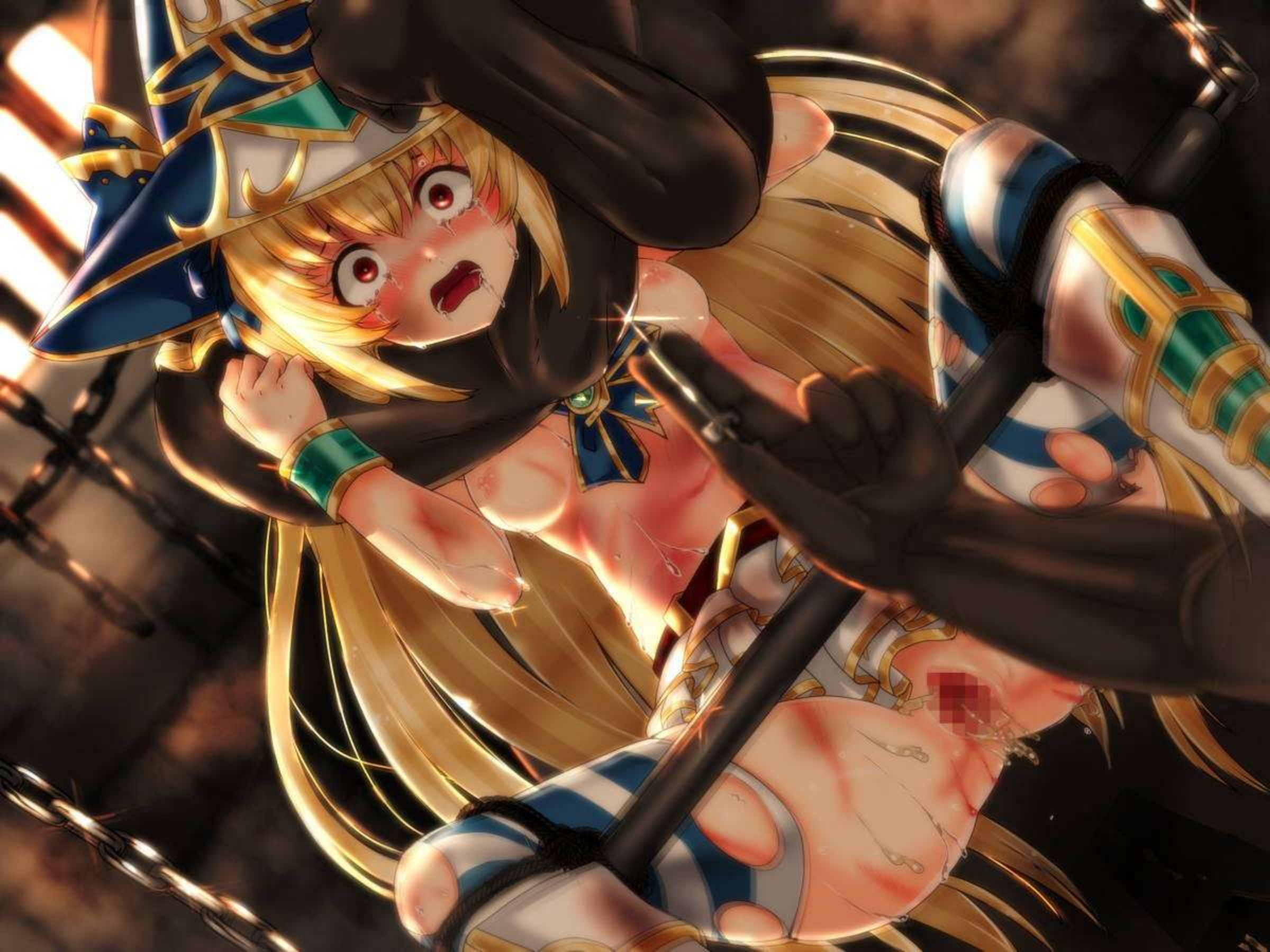


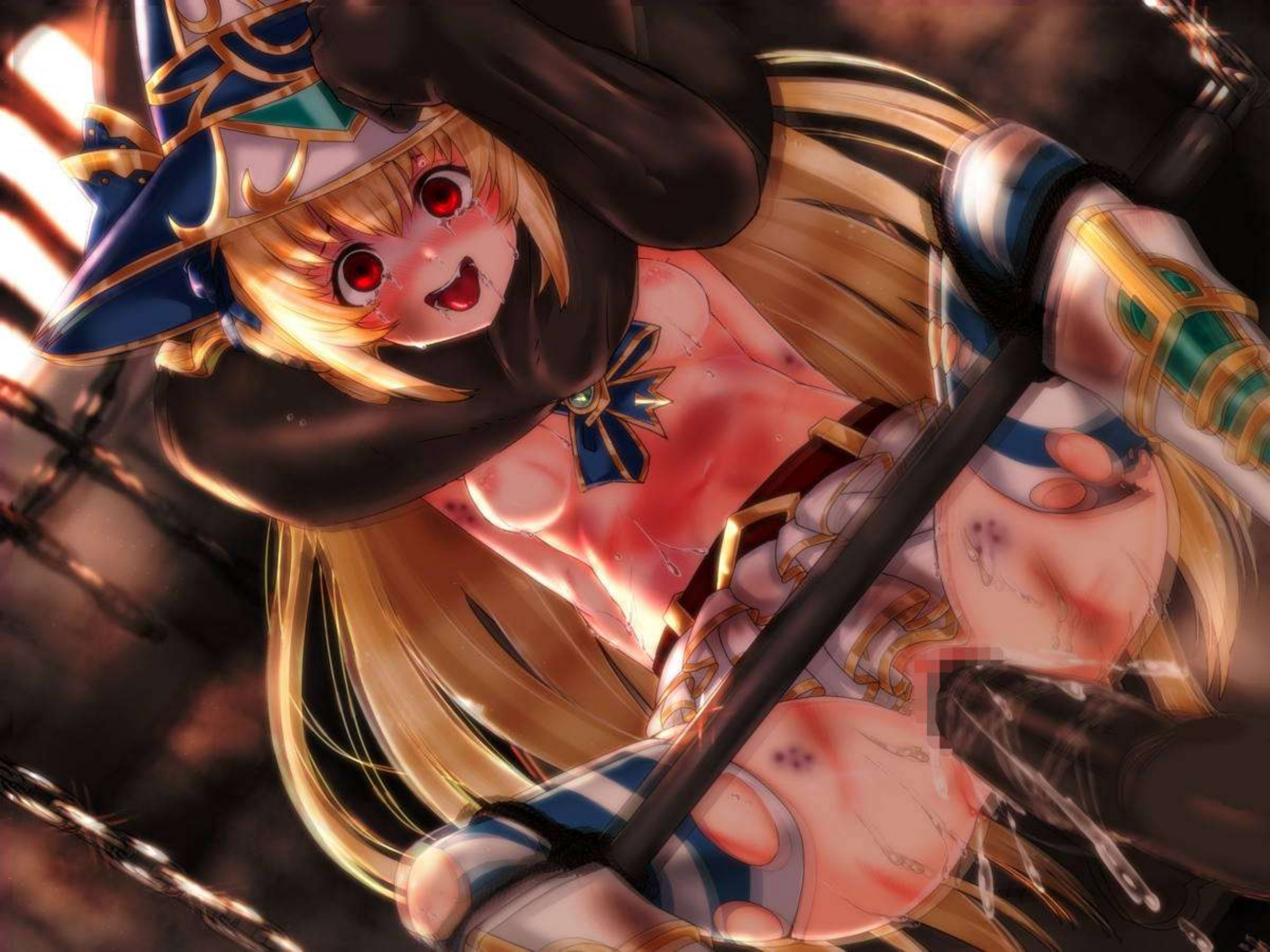














闇に襲撃され、扉のルーンで辛くもその場を逃れたエシリア。
しかしそれは買だった――

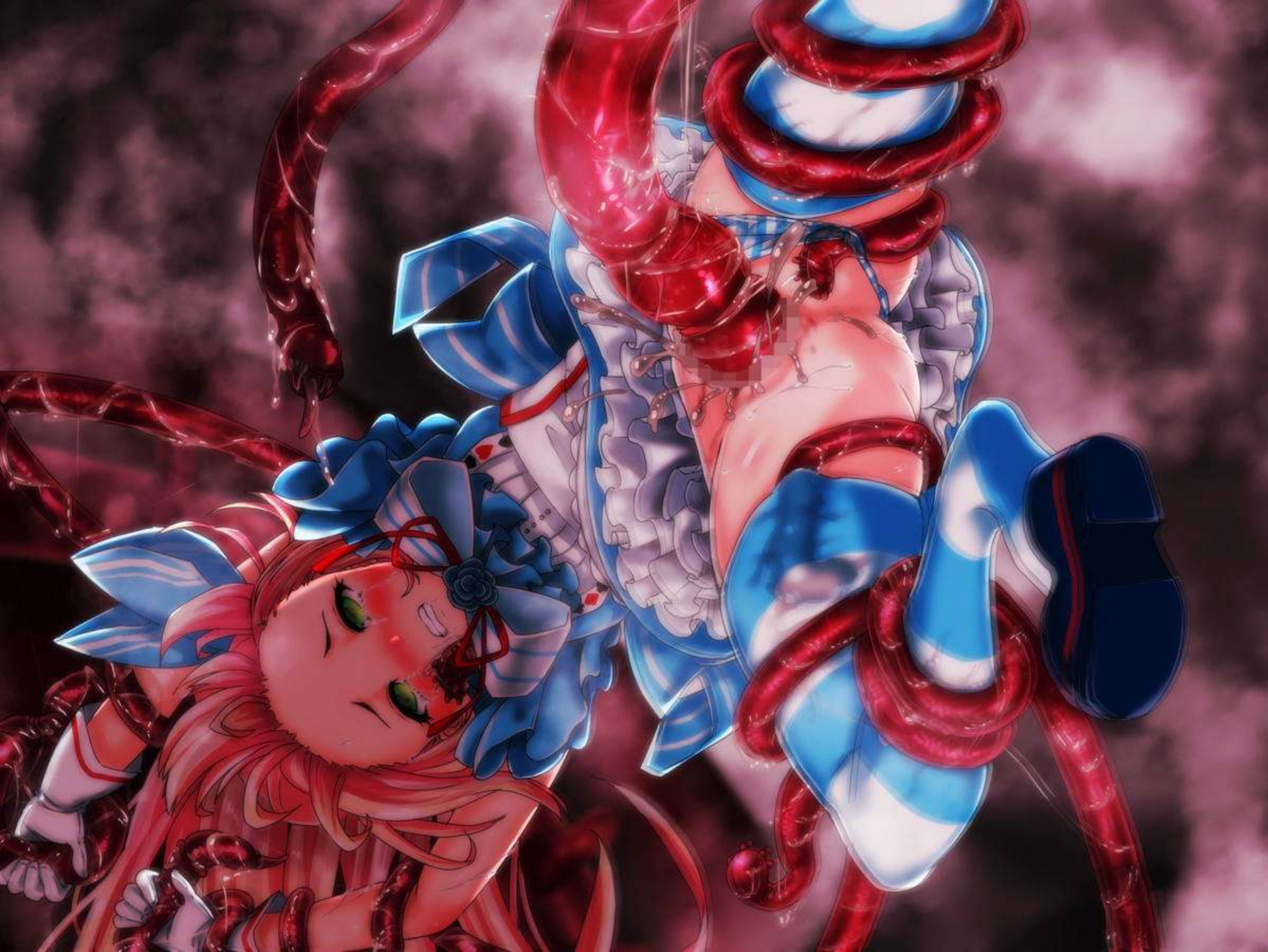
扉のルーンの行き先は強力な魔物の巢の最深部に固定されており、
彼女は魔物に捕えられてしまった。



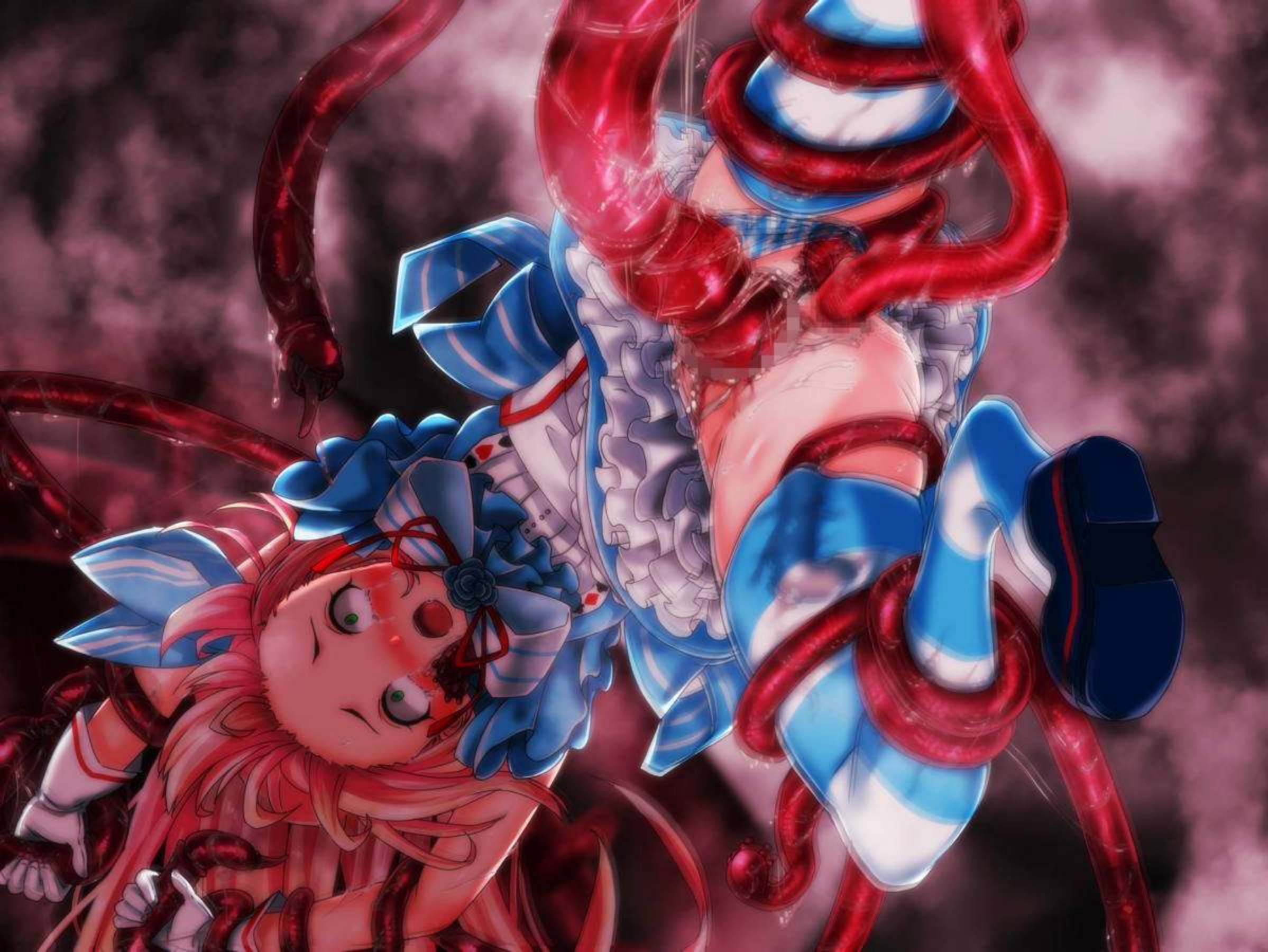


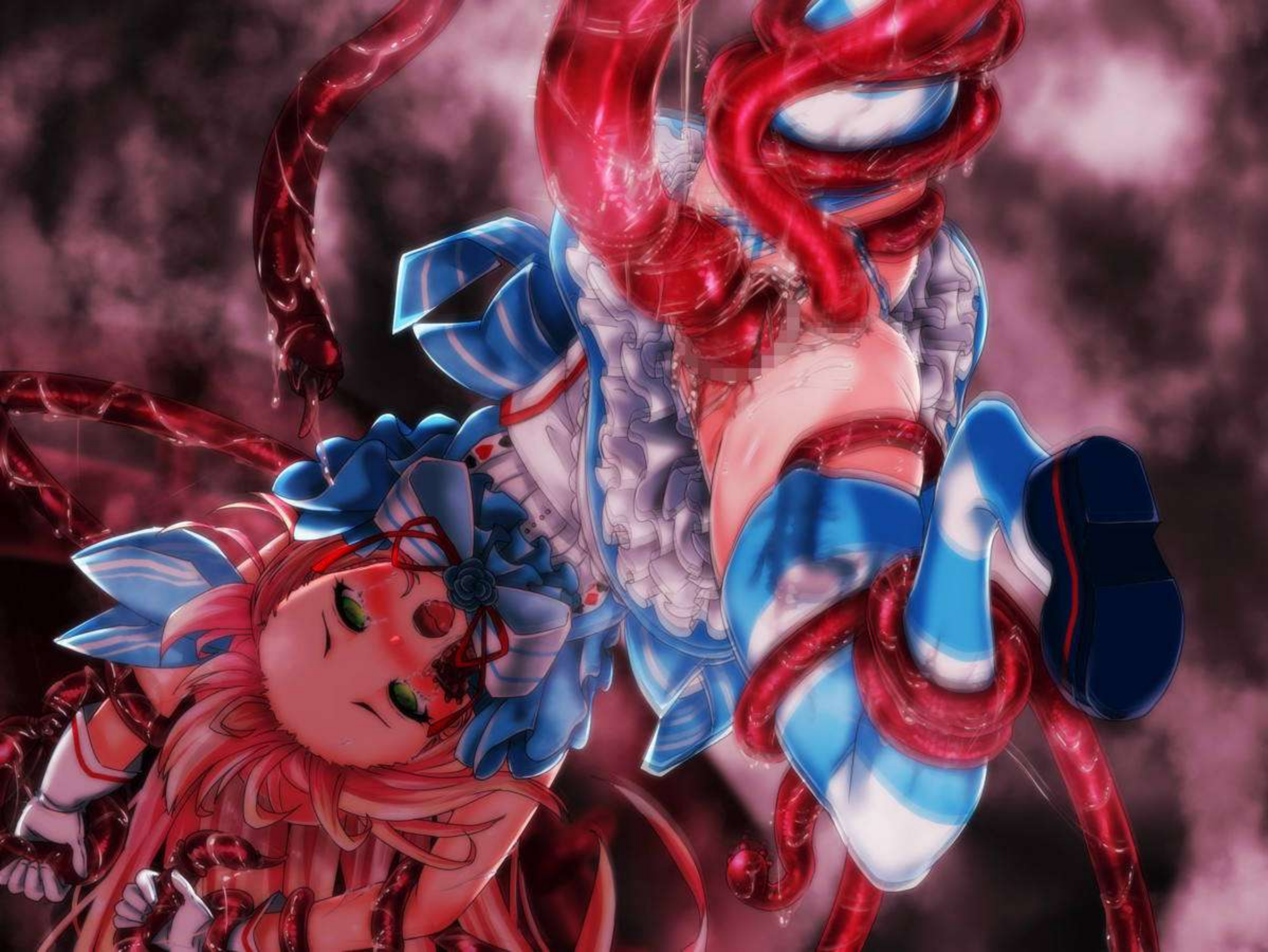
















完全に意識を失ったエシリアを魔物はなおも犯しぬき、
やがて体内に取り込むと行方をくらました。

「彼女の」とだから、いつもの気まぐれだろう」

そんな考えとは裏腹に、

彼女が再び飛行島を訪れる」とは二度となかったのだった。

「——やっと追いつきました
私の国で随分と好き勝手にしてくれましたね」

「——これはこれはエクセリア王女
私のような一介の魔術師に何か「用が？」

「言い訳は聞きません
あなたが魔物を使役して女性たちを
攫っていた」とは調べが付いています」

「一国の姫だということにお召し物のその汚れよう——
見張りは全て切り伏せてきた——というわけですか」

「ええ——もう逃げ場はありません
おとなしく投降してください」

「と」ろでいつもともに居る白い竜
それからあの赤い男はど」へ？」

「答える必要は——」

「——あなたを」」に行かせるために
足止めをしているのでしょうか？」

「——な、なぜそれを」

「——エクセリア王女
一人で」」に来たのは悪手でしたね
生憎」」はわたしの腹の中だ——」





















彼女が嫦娥の一族の生き残り――
ツキミ・ヨゾラです

おお、これが
しかし肝心の『寿命を譲渡する力』は
失われているのだったか……

ええ。人質や拷問といった様々な手段を講じたのですが
どういうわけか正体不明の力に阻まれてしまい……

そうか――
それは残念だ

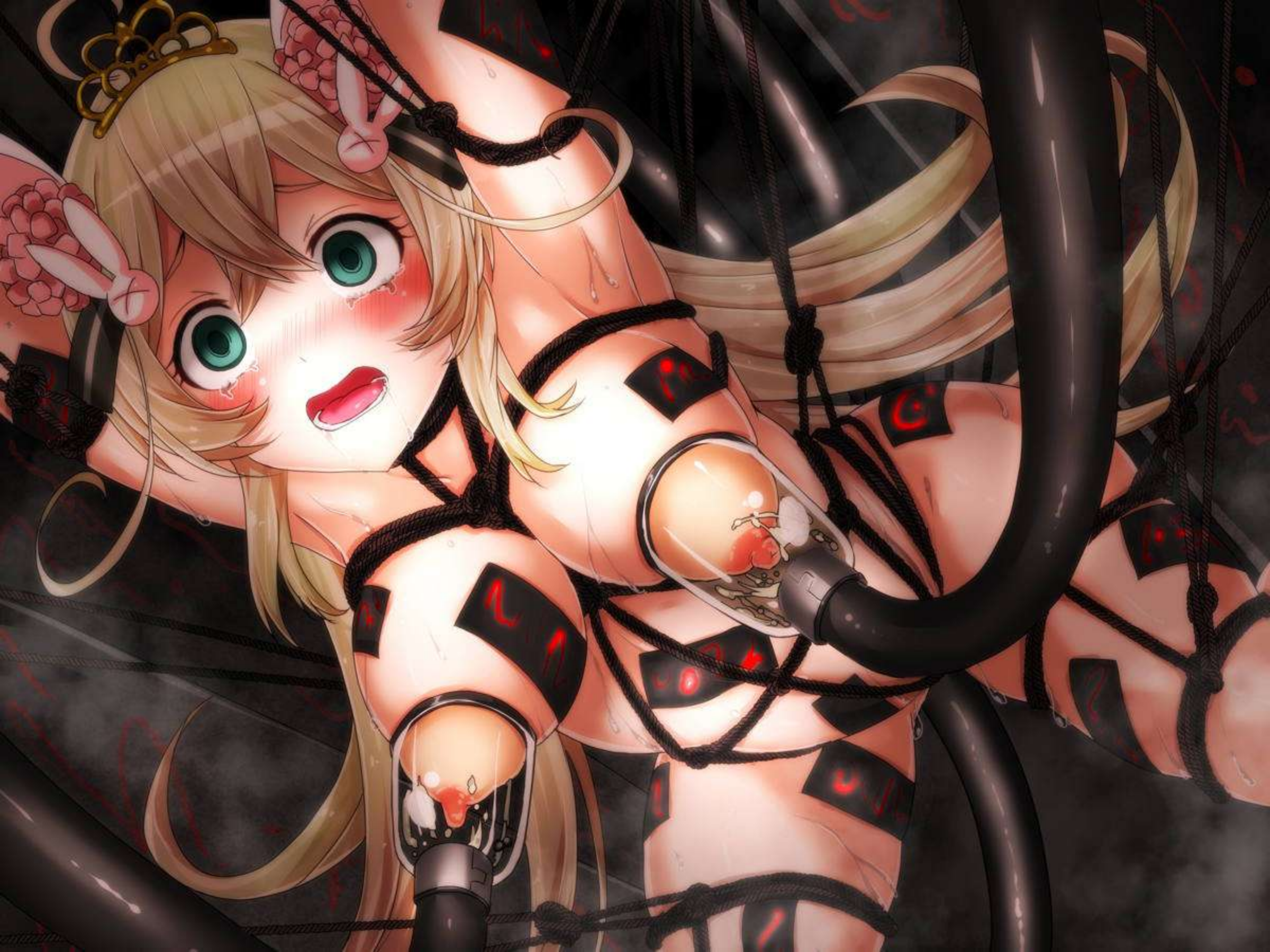
しかし、かの一族の肉体の特殊性には
多くの利用価値があります――





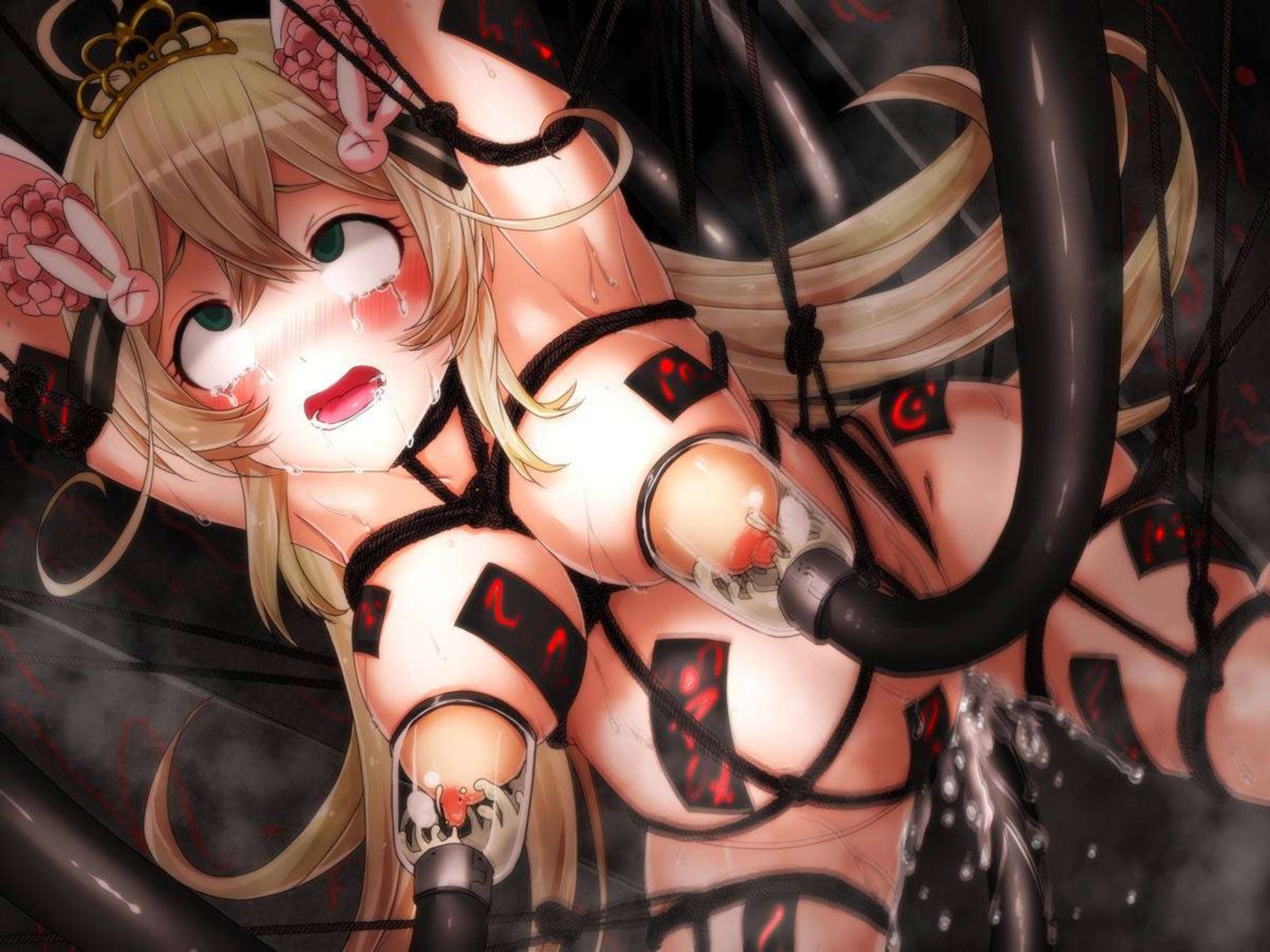














囚われたテイナはその希少な血統と容姿から多くの組織の間で高値で取引されていた。







